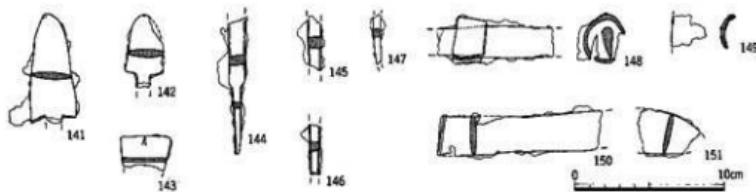
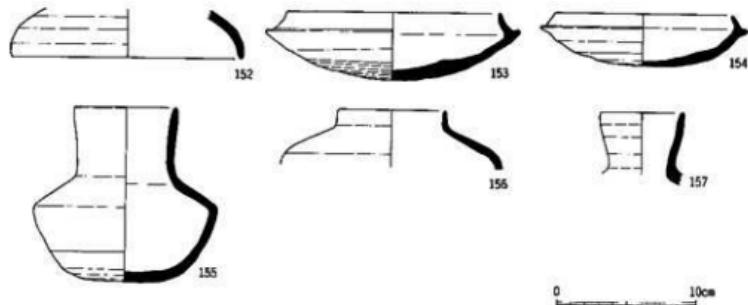


第18図 S M1002出土ガラス玉



第19図 S M1002出土鐵器



第20図 S M1002出土須恵器

須恵器には、蓋杯、直口壺、短頸壺、瓶頸がある。152～154は蓋杯で、153と154は口径に差がみられるが、いずれも口縁部の立ち上がりが高い。直口壺(155)は、平坦な底部と大きく屈曲する体部より、直線的に長い口頸部が上方へ延びる。短頸壺(156)で、全体的に薄い作りで、瓶頸(157)は口頸部外面にみられる強い回転ナデが特徴となっている。

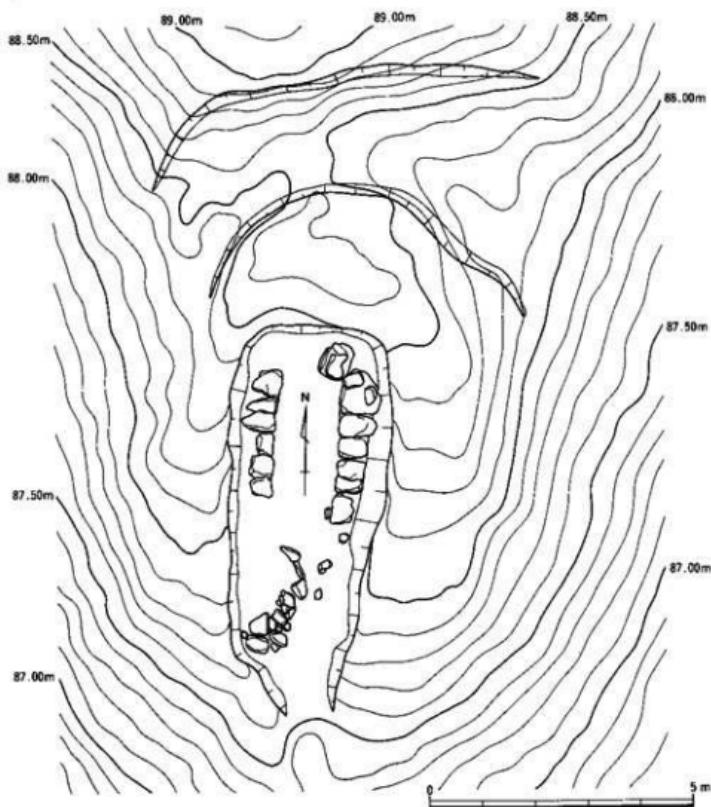
#### (4) 小結

2号墳は、床面が擾乱されており、本来の姿をとどめていないため、築造時期や追葬回数

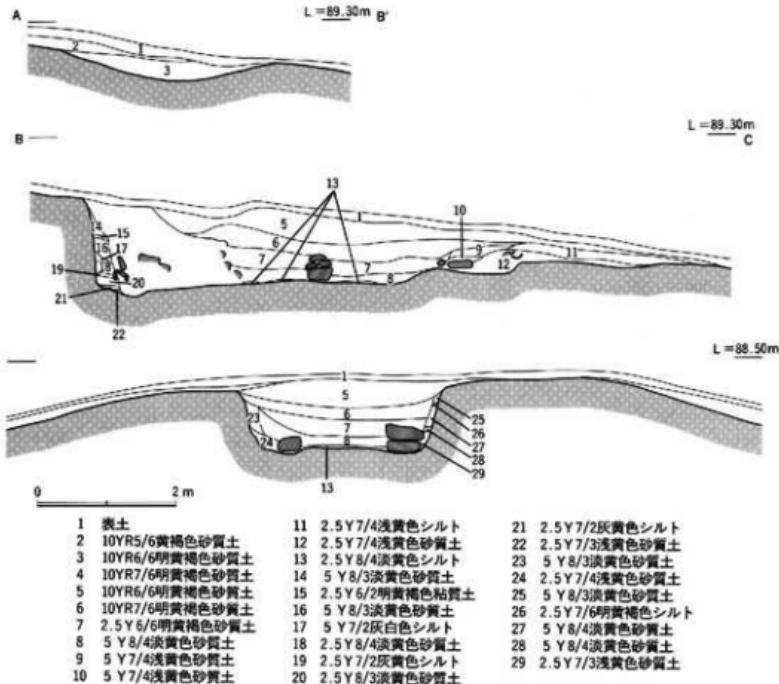
を厳密に決定することは難しい。しかし須恵器蓋杯には形態差が認められ、少なくとも2回の埋葬が行われたものと考えられる。また玄門部での仕切石の設置や奥壁に板状の石材を立てて使用している点など、他の古墳との相違点もいくつか認められることは、本古墳群のみならず周辺の古墳群との関連において把握すべきものと考える。

### 3号墳（SM1003）

#### (1) 墓丘・周溝



第21図 SM1003墳丘測量図



第22図 S M1003填丘断面図

3号墳は、2号墳の南の標高87.5~88.5mの地点に位置する。北側に周溝を持ち、主体部には横穴式石室が構築されている（第21図）。

周溝は、北側尾根鞍部を切るように構築されている。長さ約8mが残存し、中央部の幅は約2m、深さは約30cmでU字形の断面を呈する。周溝内には明黄褐色砂質土（3層）の堆積がみられたが、遺物は少なかった。

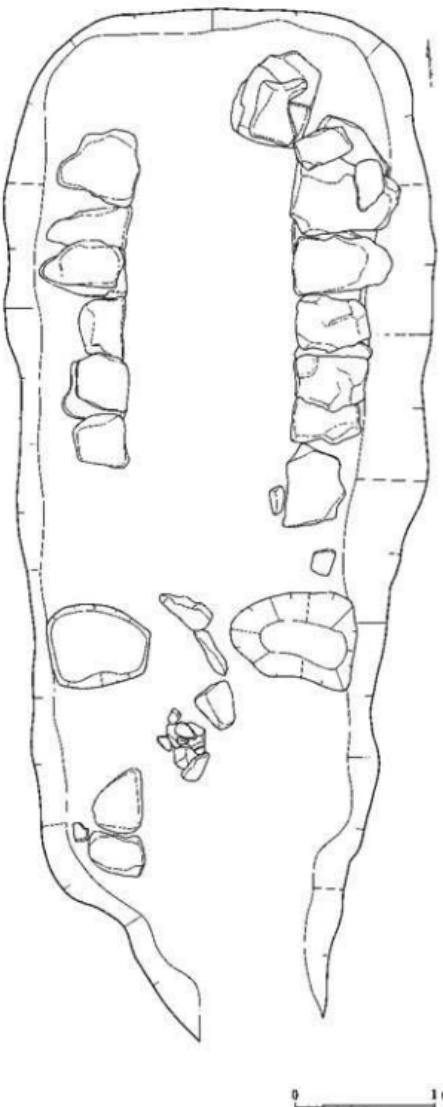
墳丘は盛土がほとんど残存しておらず、その構築方法は不明である。周溝や主体部掘り方から推測される墳形及び規模は、直径10m程度の円墳と考えられる。

## （2） 主体部

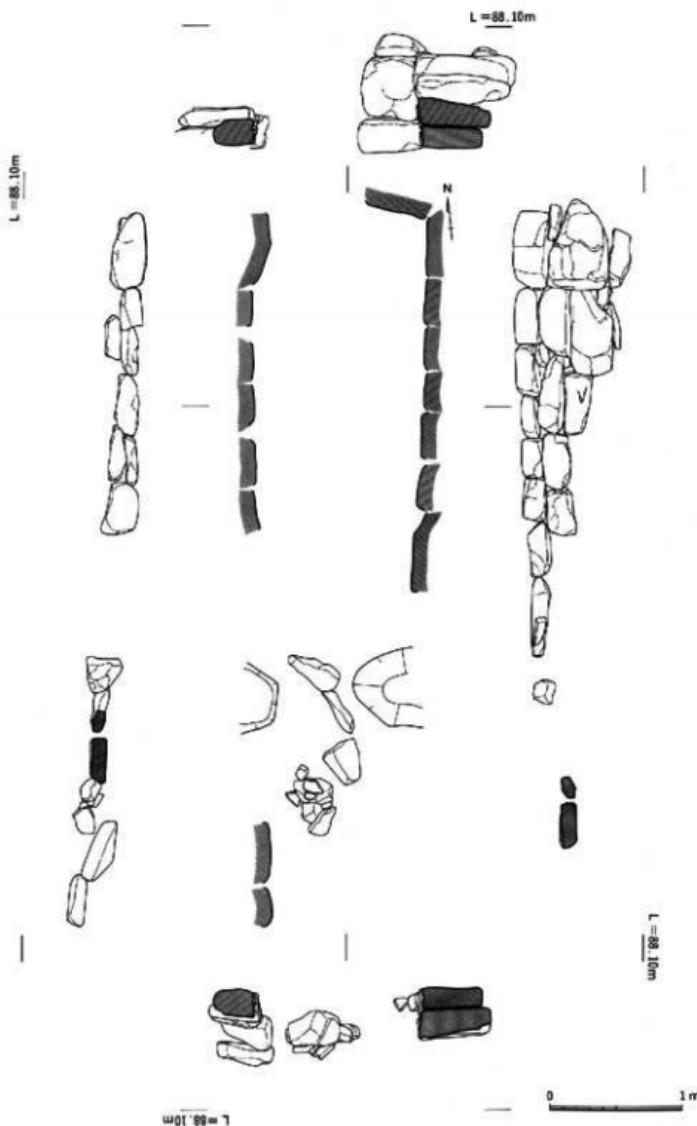
主体部は、幅約2.9m、長さ約7.4m、残存する深さ約1.4mの圓丸長方形の掘り方に、主軸方向をN 4°Eにとる横穴式石室が構築されている。盜掘のためとみられる擾乱により石室の残存状況は良くない。

石室内は、攪乱後の埋土が大半を占め、それ以前の堆積土はわずかしか残存していない。5~8層の明黄褐色または淡黄色の砂質土は攪乱後の堆積である。9~12層の浅黄色の砂質土またはシルトは、石室の利用終了直後から攪乱を受けるまでの堆積土である。特に12層には狭道部において検出された須恵器が含まれている。13層の淡黄色砂質土は、焼土もしくは灰とみられる粒子を含み、よくしまっている。床面もしくは床面構築にあたっての基底部を構成する層と考えられる。14~29層は壁体構築時の裏込め土と考えられる。奥壁側と左側壁側は粒子の細かい層(15・17・19・21・26・28層)と粗い層(14・16・18・20・22・25・27・29層)が互層になっている。

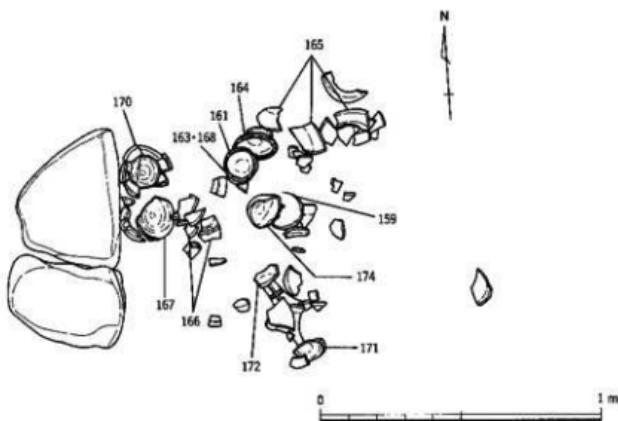
狭道部は、内法幅約1m、長さ約1.5mと推定される。右側に置いた石材とみられる40~50cm大で厚さ10~15cm程度の板状の砂岩が2つ残存し、床面には10~30cm大の砂岩小礫が若干みられる。このことから狭道部にも床面には礫が敷かれていたことが推測される。玄門部は袖石を欠くが、床面に残存する石材の抜き取り痕から両袖式の石室であったとみられ、また礫床の残存状況から当初より仕切石は配置されていなかったと考えられ



第23図 SM1003主体部平面図



第24図 S M1003石室実測図

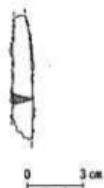


第25図 SM1003遺物出土状況

る。

玄室の内法幅は、奥壁側1.2m、中央部1.3m、玄門付近1.2mで、わずかに胴張り気味の長方形プランを持つ。長さは3.4m程度と推定される。右側壁は多い部分で2段約25cmが残存し、最も奥壁側の石材の幅が約60cmであるほかは、ほとんどが幅約40cmほどの板状の石材となっている。左側壁は、多い部分で3段、約80cmが残存し、第1段に40cm大の板状の石材を用い、第2段には50~60cm大の石材を、第3段には70~80cm大の石材を配し、上部ほど大きな石材を用いている。また積み方については、第26図 SM1003出土器物いくつかのブロックに分けて積むのではなく、1段ずつ横へ横へ積んでいくという方法が採られている。奥壁は中央から右側を欠くため、1列3段しか残存していない。第1段には50cm大の板状の石材を配し、第2段には70cm大の砂岩の小口を利用している。また石材の形態に合わせて小さな板状の石材を間に配しレベルの調整を行っている。玄室床面については、羨道部の様子から砂岩小砾による礫床が想定されるが、全く残存しておらず不明である。ただ検出段階において、玄室内には中央部と奥壁近くに、短軸方向に2列の石列がみられ、これらが擾乱時に石室内の石材を積み上げたものと考えられることから、本墳石室内はほとんど原形をとどめていないものとみられる。

遺物は、ほとんどが羨道部から出土し、特に羨道部の最も開口部に近い地点では、須恵器が集めて積み上げられたような形で検出された(第25図)。まずもっとも開口部側で、長脚高杯が2つ(171・172)、横倒して脚部を合わせるような状態で、羨道部中央では蓋杯(159・



161・163・168) や高杯 (164・165) に混じって平瓶 (174) が、右側壁近くで短脚高杯 (170) と高杯蓋 (167) が検出された。中央部の蓋杯や高杯には完形のものが多いが、それ以外の地点では破片が多い。

### (3) 出土遺物

3号墳出土遺物には、鉄器と須恵器がある。以下各種遺物について記述する。

#### 鉄器 (第26図)

158は刀子である。石室内の擾乱から出土した。刃部のみが残存している。

#### 須恵器 (第27図)

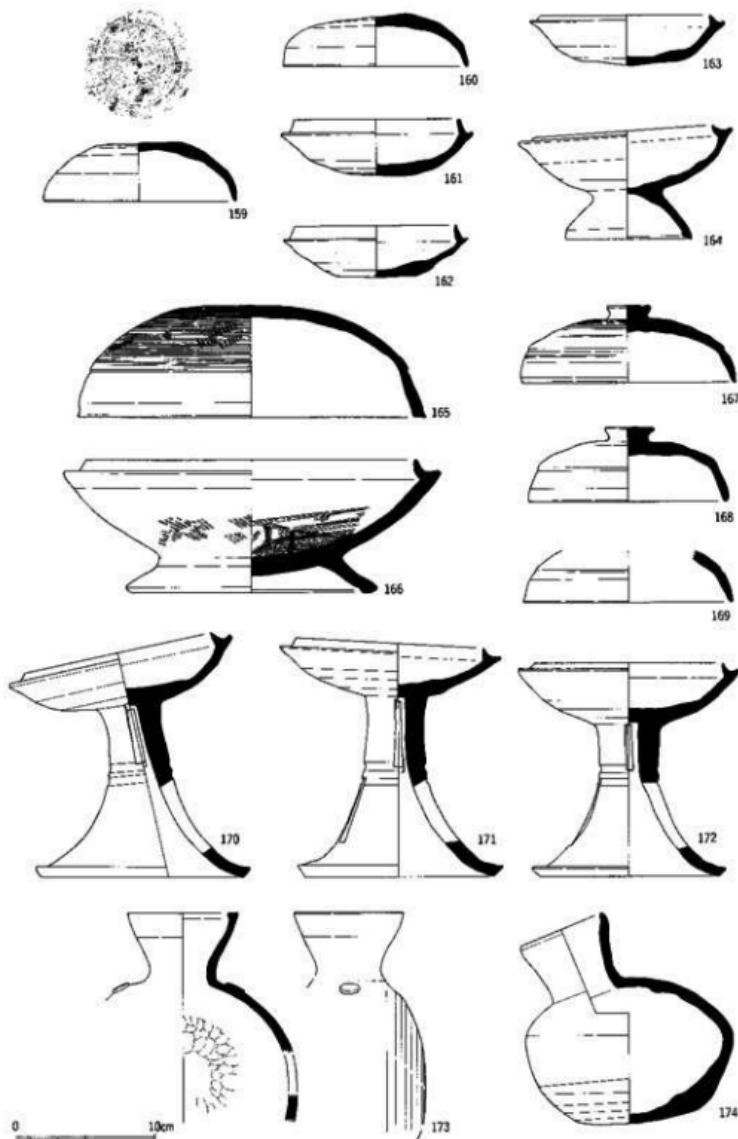
須恵器には、蓋杯、高杯、提瓶、平瓶がある。

159～160は蓋杯の蓋で、159の天井部外面には「+」形のヘラ記号がみられる。

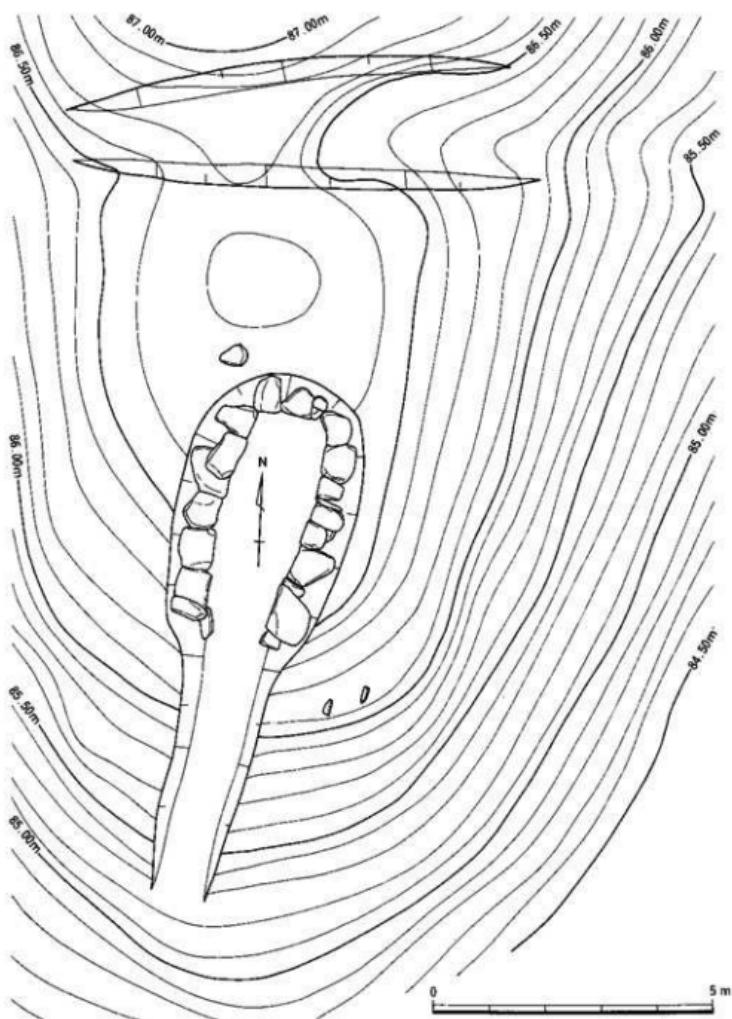
161～163は蓋杯の身で、161・162のように口縁部の立ち上がりが高いものと、163のように低く短いものとがある。

164～172は高杯で、このうち164～166は有蓋短脚高杯、167～172が有蓋長脚高杯である。164は短く外反しつつ立ち上がる口縁部と倒杯形に延びる脚部が特徴である。165・166は大形の有蓋短脚高杯の蓋と身のセットである。165は口縁部と天井部の境に稜線を巡らし、天井部には平行タタキを施した後、回転カキメを施している。166は杯部外面に回転ナデが施されているが、わずかに平行タタキの残存が認められ、また脚部より内側の底部外側にもかすかに回転カキメが残存している。このことから杯部の外面に平行タタキを施した後回転カキメを施し、その後脚部を貼り付けて回転ナデを施したものとみられる。また内面には強い不整方向ナデがみられる。167～169は有蓋長脚高杯の蓋で、いずれも外表面の相当部分に自然釉が認められ、天井部と口縁部の境には稜線が巡っている。また167には天井部外面に回転カキメが施されている。170～172は有蓋長脚高杯の身で、いずれも口縁部の立ち上がりが低く短く、脚部に施された2条の沈線と2方2段の方形の透かし穴も共通している。なお蓋167は口縁端部をわずかに欠き、高杯170は受部に蓋の口縁端部の釉着が認められる。170にみられる口縁端部は167のものであることから、焼成時に身の上に蓋を重ねて置いたものと考えられる。

173は提瓶で、体部外面には弱い回転の回転ヘラ削りが、内面には時計回りに施されたユビ押さえがみられる。174は平瓶で、体部の上面に三角錐状の把手が2つ張り付けられているのが特徴となっている。



第27図 SM 1003出土須恵器



第28図 S M1004填丘測量図

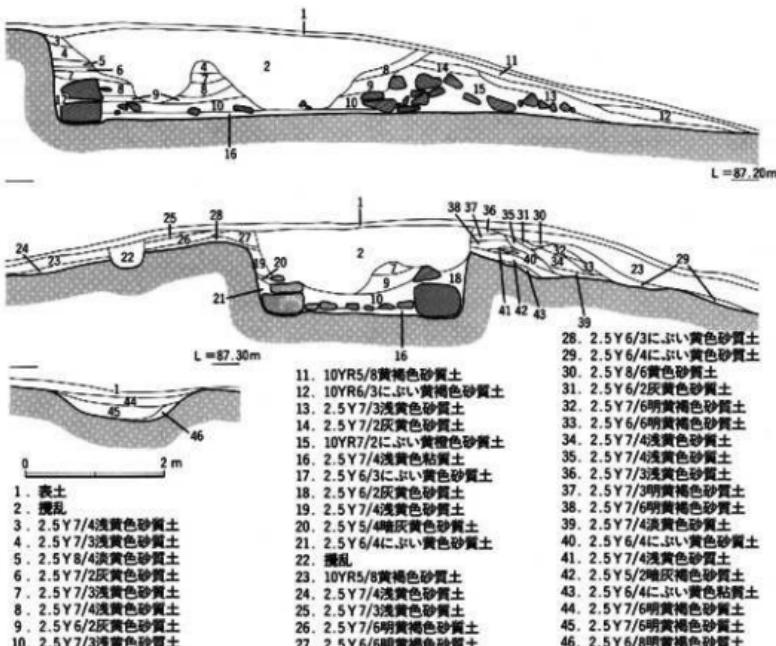
#### (4) 小結

全体的に残存状況の悪い3号墳の最も大きい特徴は須恵器である。なかでも特に有蓋長脚高杯には、167と170のように胎土が粗いものが含まれており、色調や焼成が他の古墳とは異なる。また脚部の透かし孔の形状にも特徴が認められる。透かし孔は2段2方向に穿たれ、幅8~17mm程度の方形を呈するが、4号墳や柿谷遺跡では、筋状の透かし孔を持つ高杯がみられ、透かし孔の形態が異なる。165、166のような大形の短脚高杯も類例ではなく、在地窯での生産をも想定した供給ルートの再検討も必要になるものと考えられる。

3号墳出土の須恵器は、その形状や法量から、蓋杯160・161、高杯165・166や167・170、蓋杯163という大きく3つのグループに分けることができる。これはそのまま製造時期や追葬時期を表したものと考えられることから、少なくとも3度の埋葬が行われたものと考えられる。

4号墳 (SM1004)

L = 87.20m



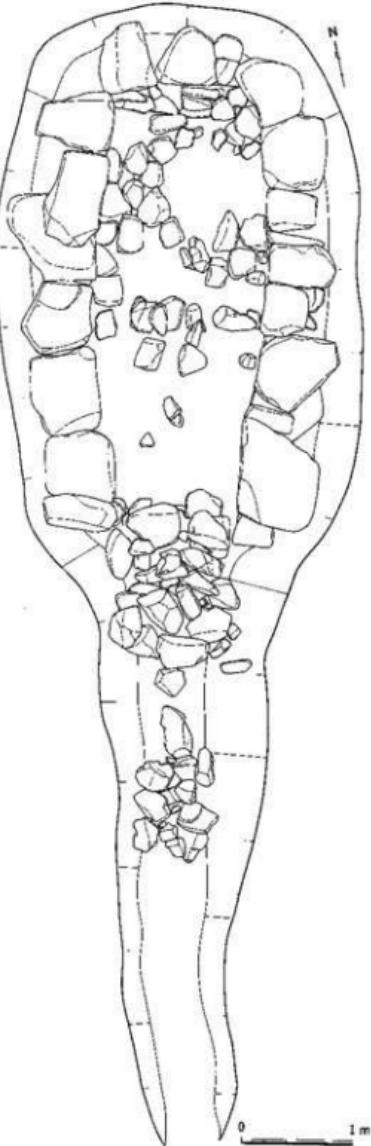
第29図 SM1004墳丘断面図

### (1) 墳丘・周溝

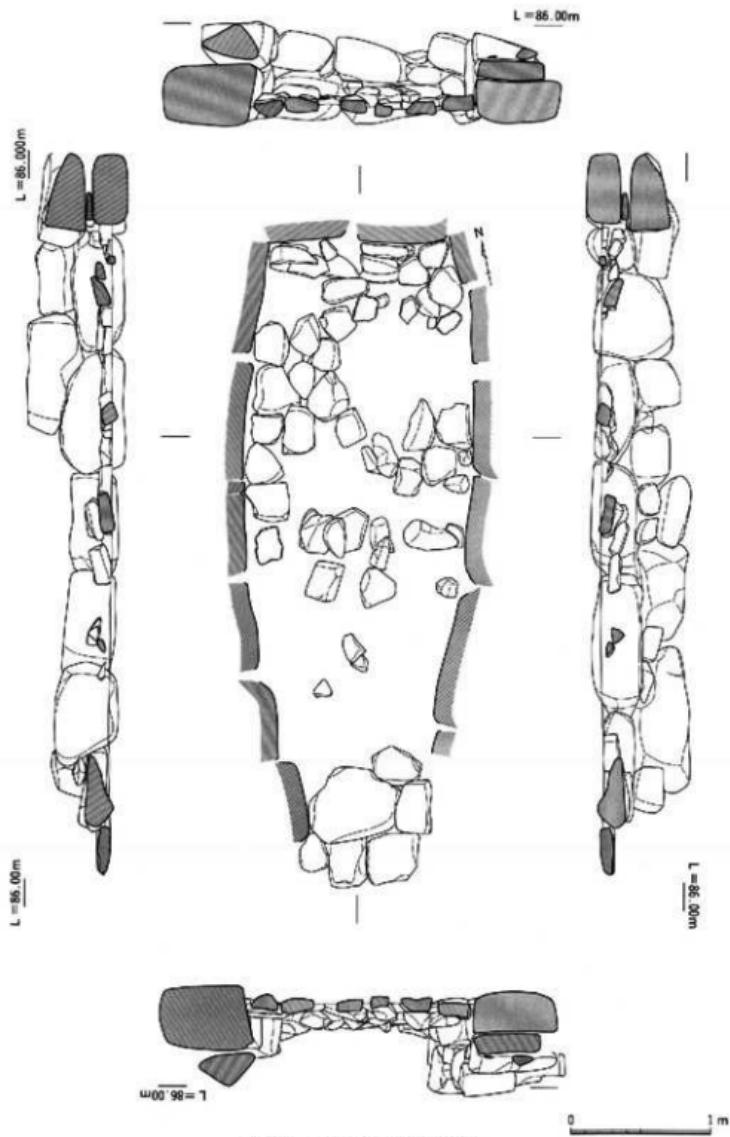
4号墳は、調査区の最も南、標高85~86.5mの地点に位置する。北側尾根鞍部を切るように構築された周溝を持ち、墳丘上に石室掘り方の周囲には、30~50cm大の砂岩礫がみられた。主体部には横穴式石室が構築されている(第28図)。

周溝は、尾根部分に約8m程度残存している。中央部の幅は約2.3m、深さは約45cmで、断面はU字形を呈する。周溝内には明黄褐色砂質土(44~46層)が堆積しており、大きく3層に分けられる。特に45層には須恵器が多く含まれていた。須恵器はほとんどが甕の体部とみられ、口縁部、底部はほとんど含まれていなかった(第29図)。本墳の周溝は、その残存状況からみて墓域の区画という性格が強いものとみられる。

墳丘は、まず地山整形面に明黄褐色(25~26層)やにぶい黄色(27~42層)砂質土を施してレベル調整を行い、その上面に炭化物混じりの砂質土(25~40・42層)を突き固めて基底部を構成し、さらに黄褐色系の砂質土(29~39層)を互層に叩き締めるという方法で構築している。また基底部を構成すると考えられる27層が、掘り方内にまで延び、側壁架構時の裏込めとみられる19~21層の上にもみられることは、盛土によって墳丘が構築された後、掘り方が掘削されたのではなく、まず地山



第30図 S M1004主体部平面図



第31図 SM1004石室実測図

面を露出させ整形した後墓壙を掘削し、石室を構築しつつ盛り土が施されたものとみられる(第29図)。周溝や墳丘盛土から推定される墳形及び規模は、南北径約14.5m、東西径約12mの南北に長い円墳と考えられる。

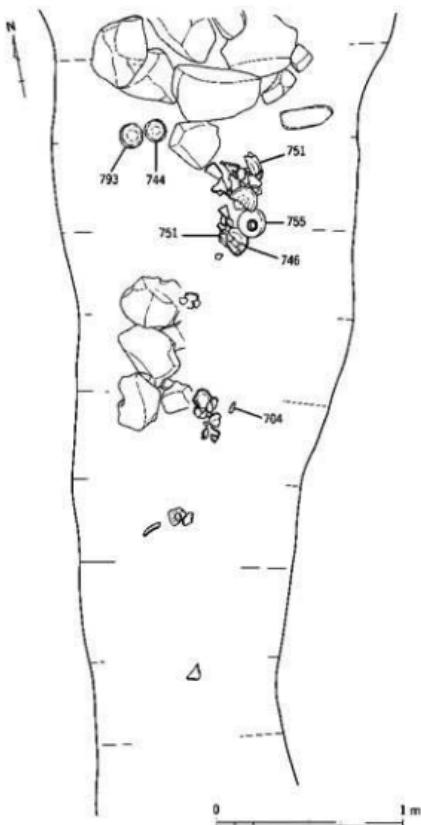
## (2) 主体部

主体部は、幅約3.2m、長さ約10.1m、残存する深さ約1.3mの隅丸長方形を呈する掘り方に、主軸方向をN13°Eに沿う横穴式石室が構築されている(第30図)。盗掘とみられる擾乱のため残存状況は良くない。

本墳主体部には、2度にわたって大きな擾乱を受けている。2層は最も新しい擾乱後の堆積層である。3~8層が石材の抜き取りなどが行われたとみられる第1回目の擾乱後の堆積である。ほぼ平行な堆積をしているが、7層と8層は粒子が粗くしまっていないのに対して、3~6層は比較的よくしまっている。9層と10層は石室利用終了直後の堆積土である。いずれもよくしまっている。特に10層は床面直上の堆積であり、遺物もこの層に多く含まれている。11~14層は閉塞石上面の堆積で13層には須恵器等の破片が含まれている。15層は閉塞石中の堆積で、この層の上面には完形の須恵器等が含まれている。16層の浅黄色粘質土は、非常によくしまっており、この層の上面や上部には玉が多く含まれている。

石室開口部には、30~40cm大の砂岩礫が閉塞石として用いられ、長さ約1.5m、高さ約60cmにわたって積み上げられていた。羨道部中央にみられる礫群は、それらの閉塞石の崩れたものとみられる。

羨道部の遺物は、概ね4群に分けられる(第32図・図版18)。まず閉塞石のすぐ南西側より、

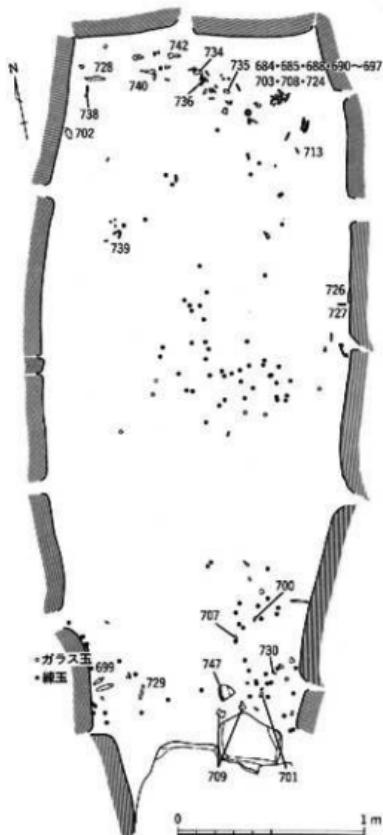


第32図 S M1004羨道遺物出土状況

完形の蓋杯743と744が口縁部を上に向け、並んで出土した。南東側では、閉塞石と羨道部中央の櫛群との間では、やや軟質焼成の高杯751や平瓶755などの完形のものほか、杯身746などの破片が出土している。中央部の櫛群の上からは土師器提瓶や鉄鏃704などが、またそこから約40cm南で高杯の蓋などが出土した。レベルはほとんどが閉塞石の上面にあたり、閉塞石の上面に堆積する15層のにぶい黄橙色砂質土中である。ただ土師器の提瓶や高杯の蓋などは、焼成が不良であったり、残存状況が良くなかったりで固化できなかつたものが多い。

石室は、内法の長さ約4.3m、幅は奥壁側約1.3m、中央部約1.6m、開口部側約1mとやや胴張りとなっている。右側壁は、すべて60~80cm大で厚さ40cm程度の砂岩が用いられている。多いところで2段、高さ約70cmまで残存し、第1段は6列で構成されている。左側壁は、最も多いところで3段、高さ約65cmが残存している。第1段は、ほとんどが厚さ約35cmの砂岩跡が用いられるが、最も奥壁に近い石材だけは厚さ約65cmと他の2倍ほどあり、第2段、第3段はその石と、他の石とのレベルを調整しつつ積み上げられている。奥壁は、2段約60cmが残存し、50~60cm大で厚さ30cm程度の石材が用いられている。また奥壁と側壁の交点は2段目以降隅丸に積まれている。

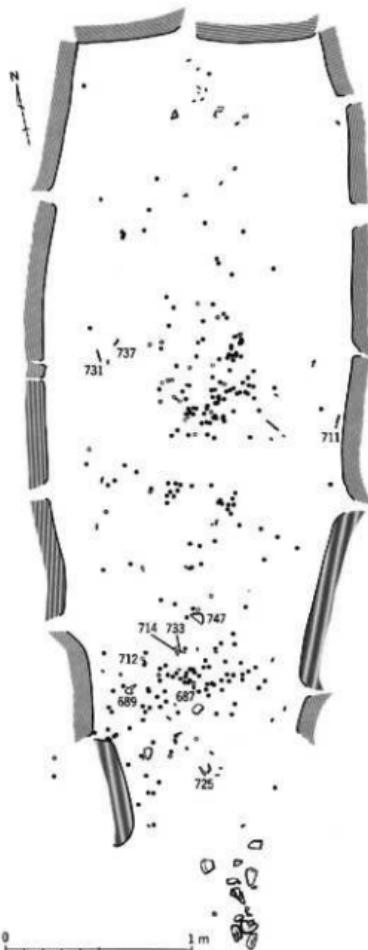
床面は2面が想定される(第31図)。第二次床面には、20~30cm大で厚さ10cm大の砂岩櫛が用いられている。櫛乱が床面付近まで及んでいることもあって、部分的に櫛のみられない所もあるが、石室内ほぼ全面に敷いたものと考えられる。開口部では50~70cm大で厚さ20cmの板状の砂岩を中心に40cm大のやや四角い砂岩が周囲に配され、仕切石として用いられている。第一次床面は、礎床は構築されていない。石室開口部にも仕切石などは置かれず、かわって16層のよくしまった浅黄色粘質土が石室内ほぼ全面に敷き詰められている。



第33図 S M1004第二次床面遺物出土状況

第二次床面の遺物は、鉄器を中心である(第33図)。特に馬具、鉄鎌は奥壁付近に集中しているが、石室中央部や開口部付近にも刀子や鉄鎌が若干みられる。奥壁付近の鉄器では、鉄鎌が、奥壁と左側壁のコーナー近くの礫床の隙間で集中して検出されている(図版20)。これらはほとんどが鋒を下に向けて方向が揃っており、意図的に置かれた可能性が高い。装身具は石室中央部と開口部付近に多くみられる。特にガラス玉は数自体は少ないが、石室中央部に集中する傾向がみられる。

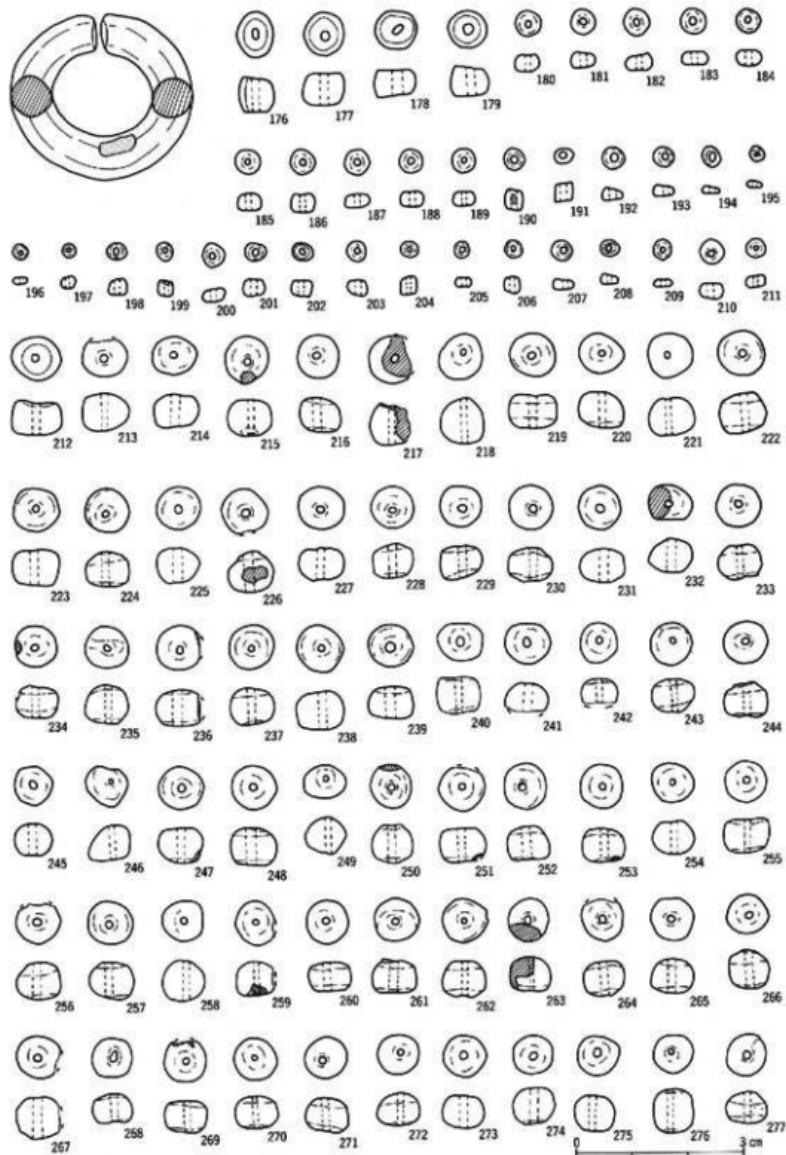
第一次床面ではほとんどが装身具で占められる。特に練玉が多く、石室中央部から開口部にかけてほぼ全面にみられる。ガラス玉は石室中央部に集中しており、第二次床面の礫床の石の下でつぶれて散ったような状態で、トンボ玉が1個体検出された。また開口部では、羨道部にかけての仕切石の下から須恵器の小片が出土している。明らかに礫床上面や下面から検出された遺物を除いて、礫床のない部分から検出された遺物については、層位やレベルから帰属する床面を想定したが、第二次床面に帰属するもので礫床の隙間から第一次床面上に転落したものなどは完全に分けることはできなかったため、杯身747や馬具737のように2面の床面に分かれてしまっているものもある。



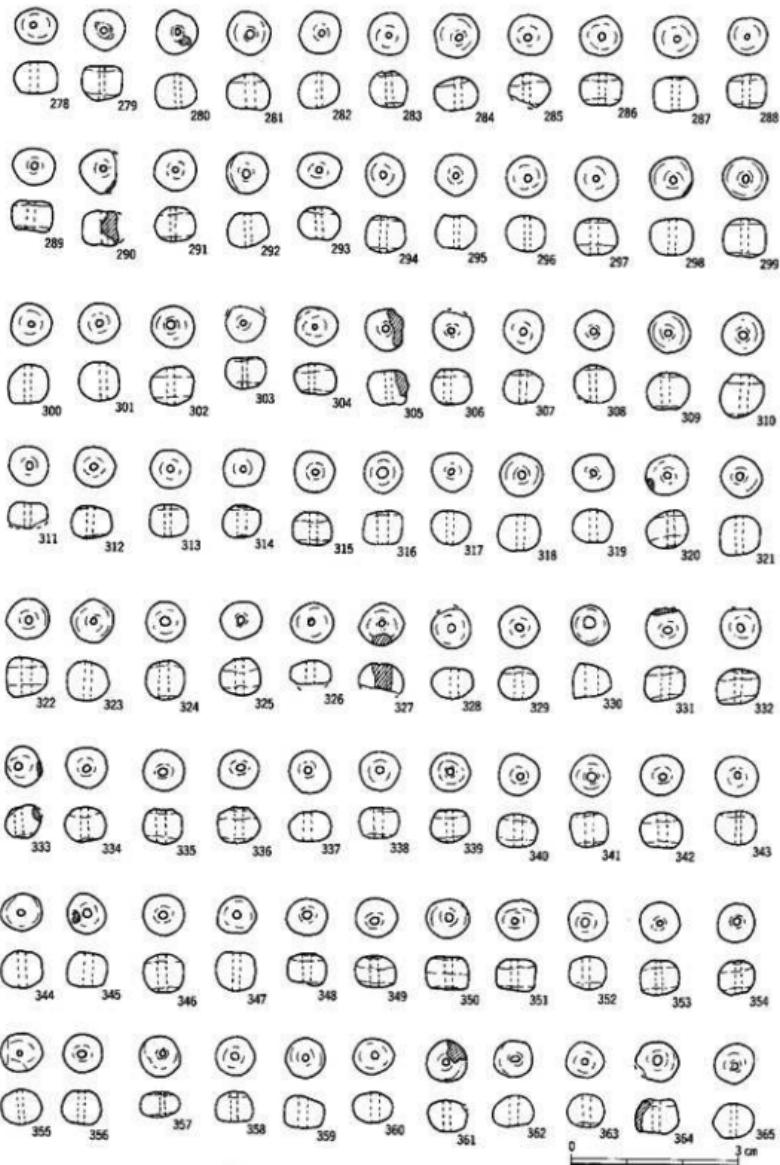
第34図 S M1004第一次床面遺物出土状況

### (3) 出土遺物

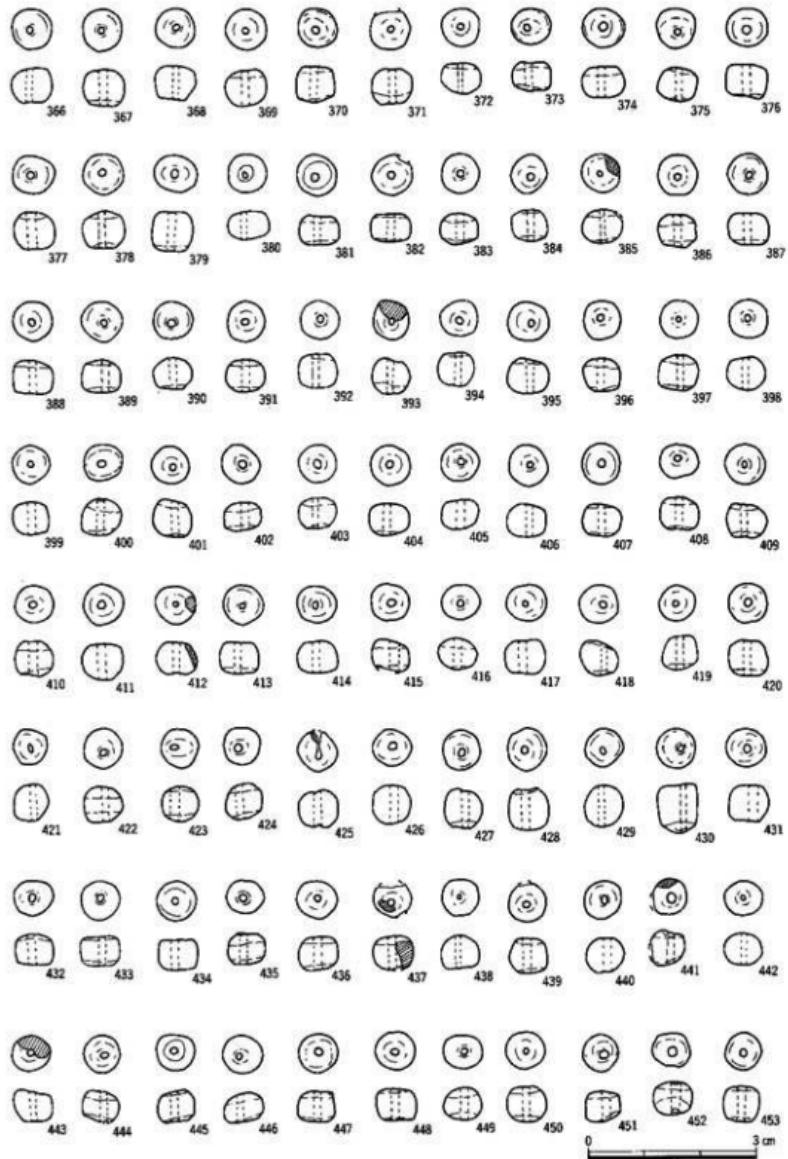
4号墳出土遺物には、装身具、鉄器、須恵器、土師器がある。以下各種遺物について記述する。



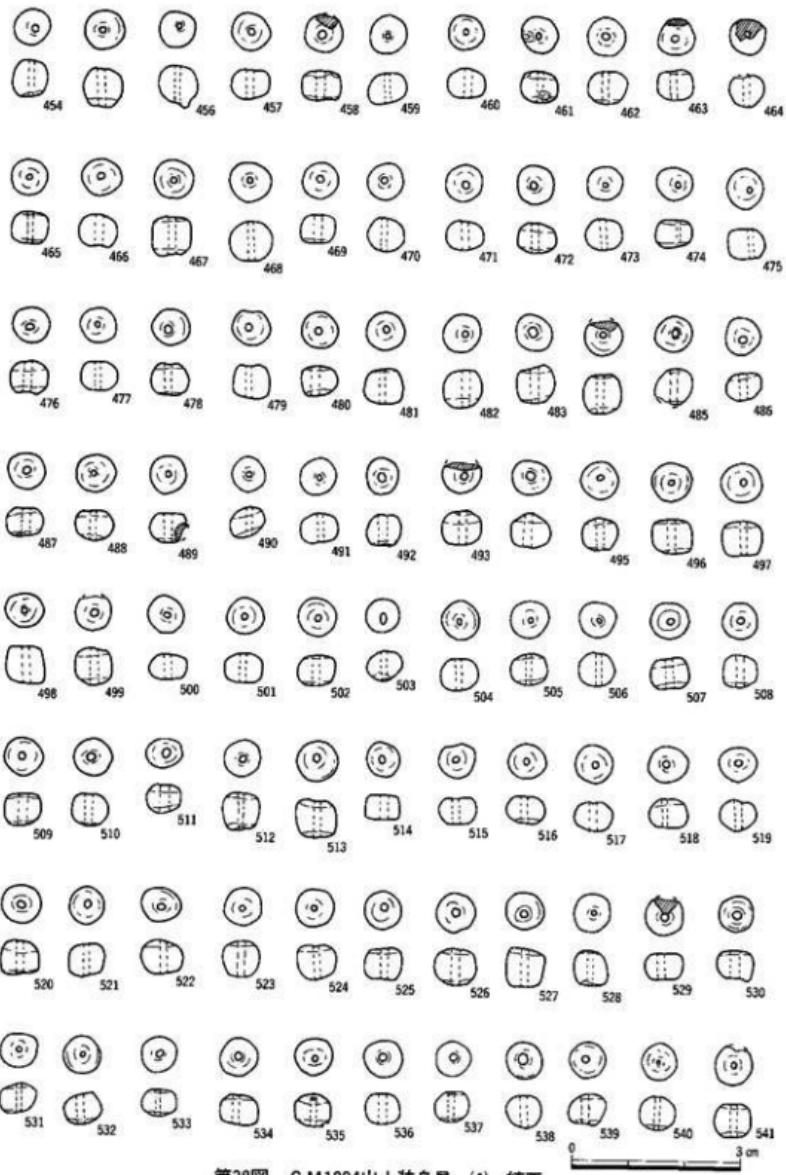
第35図 S M1004出土装身具 (1) 耳環・ガラス玉・練玉



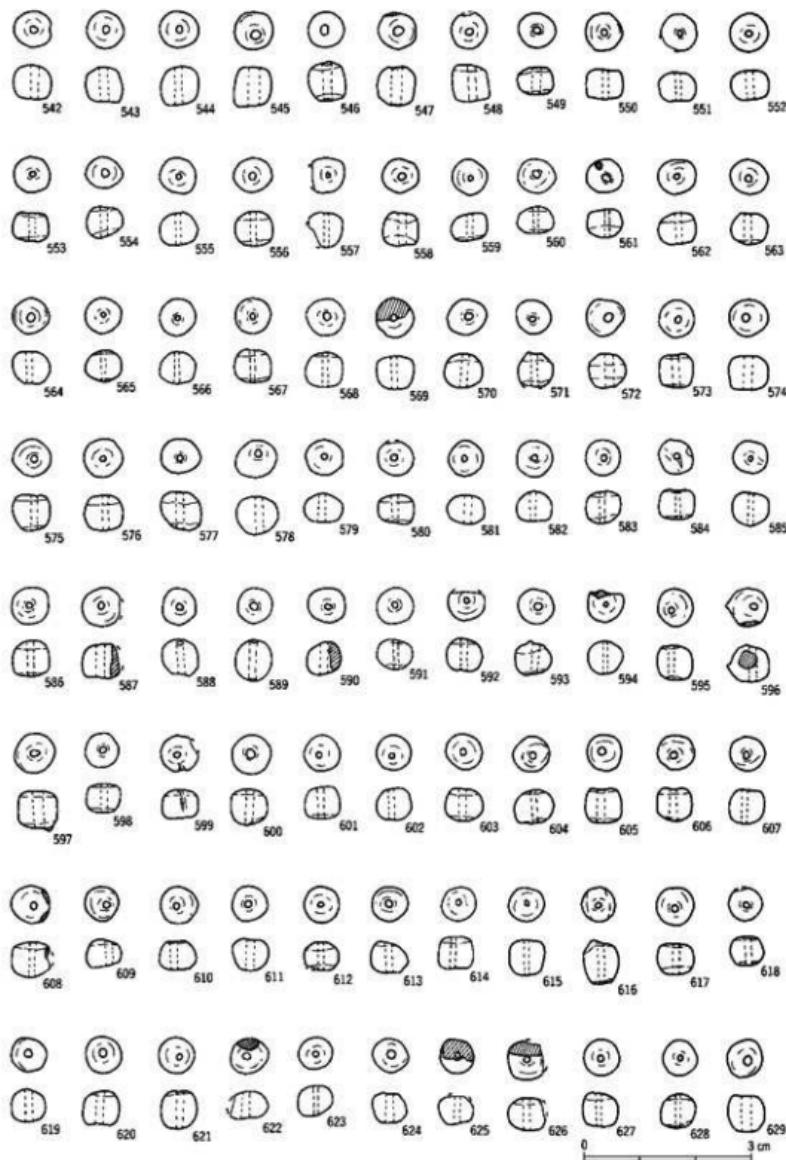
第36図 SM1004出土装身具 (2) 緑玉



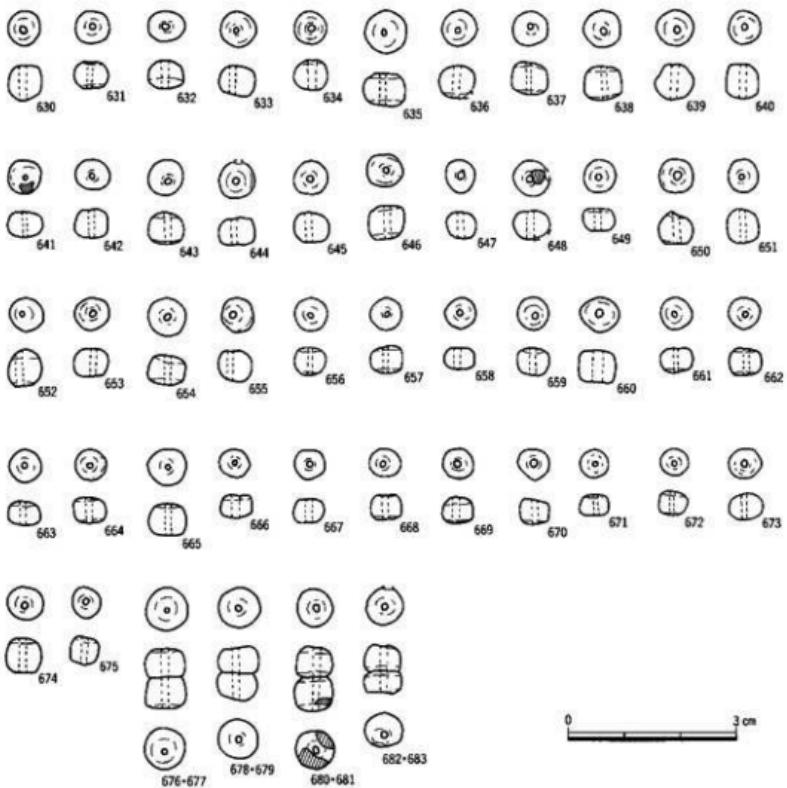
第37図 S M1004出土装身具 (3) 練玉



第38図 S M1004出土装身具 (4) 練玉



第39図 S M1004出土装身具 (5) 線玉

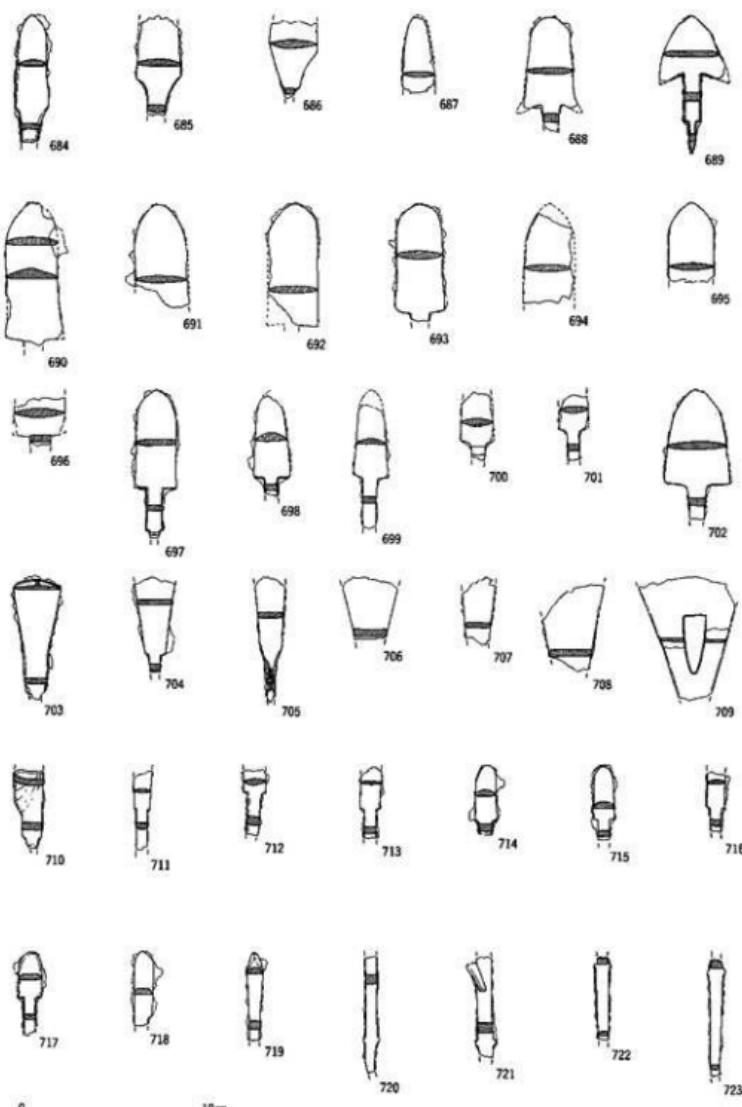


第40図 S M1004出土装身具 (6) 練玉

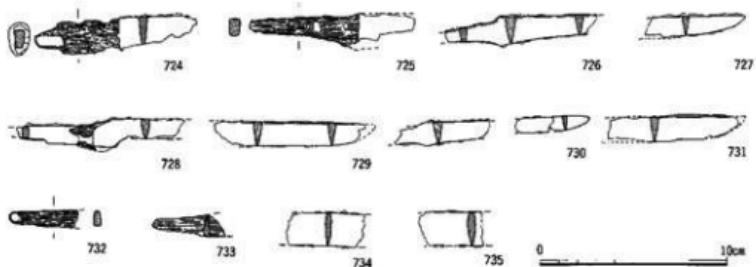
装身具 (第35~40図)

装身具には、耳環、ガラス玉、練玉がある。耳環は2つあるが、図化できたのは1つだけである。175は、わずかに内側にのみ銀箔が残存しているが、表面の大部分は剥離しており、ほとんどの部分は銅芯がむき出しになっている。芯は中実である。

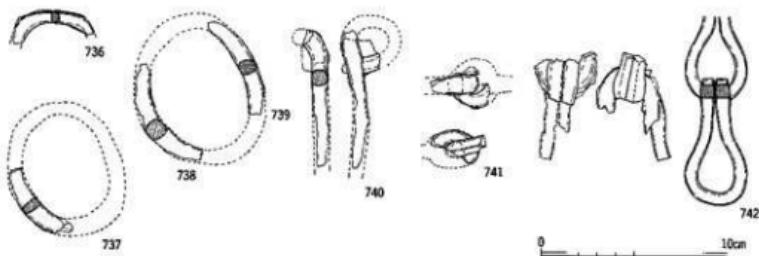
176から211はガラス玉である。176~178は紺色 (A群)、179はあいいろの玉 (B群) で、径は7~8mm、重量は0.3~0.5gほどあり、他の群と比較しても飛び抜けて大きい。上下両面が研磨されて平坦面となっており、孔と平行な方向に気泡がみられる。180~189は径4~5mm程度の紺色の玉である。一方の面の孔付近のみを研磨してあるものが多く、また切り離し時のものとみられる突起が認められるものがある (C群)。190は径4mm弱のあさぎいろの玉で、



第41図 S M1004出土鐵器 (1) 鐵鎗



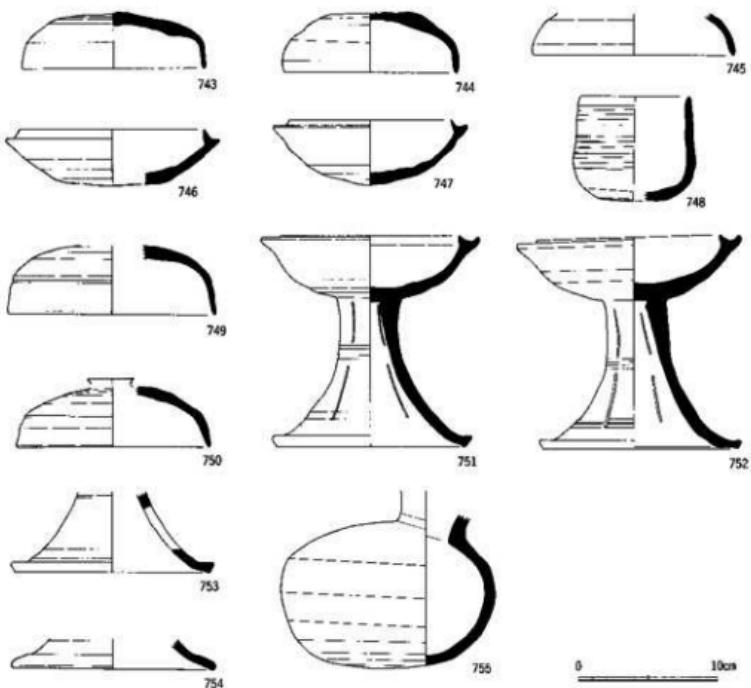
第42図 SM1004出土鉄器 (2) 刀子・鎌



第43図 SM1004出土鉄器 (3) 馬具

側面に紺色の斑点を有する(D群)。191は径3.4mmのあさぎいろの玉で、管状の素材を切断したものとみられる(E群)。192~197はあさぎいろの玉で、193が不透明であるほかは透明感がある(F群)。198・199は不透明なぶあおみどり(G群)、200~204はやや透明感のあるさびあさぎ、205はにぶみどり、206~208は不透明なさびあさぎの玉で、202、206、208には両面に研磨が施されている(H群)。209は不透明なわさびいろの玉(I群)、210・211はうすきの玉(J群)で、孔付近にのみ研磨が施されている。このほかガラス玉には、オバールグリーンの親玉に青緑とうすきいろの2種類の予玉を持つトンボ玉(モザイク玉か?)や、こみどりのガラス製管玉とみられる破片があるが、復元、図化することはできなかった。

212~683は練玉である。基本的には球体を呈するものと白形を呈するものの大きさく2つの形態に分けることができるが、その中間の形態を示すものもみられるため、厳密な区分は難しい。製作方法については、まず整形については、粘土を球体をなすものについては手で丸め、白形を呈するものは管状の素材を切断したものを、上下両面を指で挟み側面を整形したものとみられる。その後1本の細い芯に数個から数十個を刺して焼成を行う。これは676~683のように、2つの玉がくっついた状態のまま出土していることや、上下両面に平坦面を持つ



第44図 SM 1004出土須恵器 須恵器

ものの中に、その平坦面のみ黒色になつてないものがみられることから推測される。また1面がくぼみ、1面が突出するような力が玉に加わっていることから芯に刺す場合に玉を乾燥させず柔らかい状態のまま行ったものと推測される。おそらく芯には燃えやすいものが用いられ、焼成後玉だけを集めて使用したのであろう。

#### 鉄器（第41～43図）

鉄器には鎌、刀子、鎌、馬具がある。鎌には、柳葉鎌、腸抉三角形鎌、三角形鎌、方頭鎌、長頭鎌がある。684～687は柳葉鎌で、鎌身部は関部はいずれも撫閂を呈するが、断面は684・685が片丸造を、686・687は両丸造を呈する。688・689は腸抉三角形鎌で、688は鋒からふくらを有して直線状に逆刺部に至るが、逆刺部が大きく外方へ開いている。689は鋒より緩やかに内湾しつつ逆刺部に至る。688が鎌身部幅に対して長さが長く、689はほぼ同じである。断面はいずれも平造である。690～702は三角形鎌であり、そのほとんどを長三角形鎌(690～701)

が占める。鎌身関部はいずれも直角関であるが、断面にはいくつかの種類がある。690は鎌身部中央は片丸造であるが、先端は平造となっている。691～697・702は平造で、698・699は片丸造、700・701は両丸造である。703～709は方頭鎌である。703は頸円頭形の刃部を持つが、他は欠失しており、形態は不明である。709は鎌身部中央に逆三角形の透かし穴を持つが、鎌身部は剝離が激しく、かなり薄くなっている。710は鎌身部先端を欠失しており形式は不明である。鎌身部にはねじりの力が加えられているため、大きくねじれている。4号墳出土の平根鎌は、絶じて個体差が大きい。711～723は長頸鎌である。711～717については長三角形の鎌身部に関部が角関を呈し、断面は両丸造（711～713）、片丸造（714～717）がある。718は片刃形を呈し、切刃造とみられる。719は無関の鎌身部の先端にのみ刃部がある「のみや」である。

724～733は刀子である。完形のものはないが、724・725・728・732・733には茎部に木質の残存が認められる。734・735は鎌である。いずれも刃部の中央付近の一部が残存しているのみである。

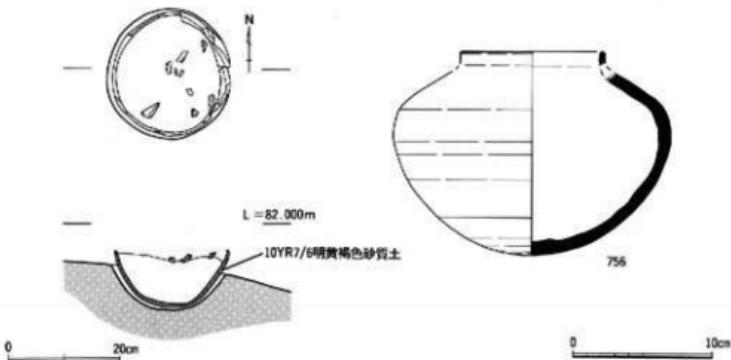
736～742は馬具の破片とみられる。736はコの字状を呈し台形の断面を持つ。立間にあたると考えられる。737～739は隅丸方形の断面を持ち、その平面形は円弧を描く。素環鏡板の一部とみられる。740は隅丸方形の断面を持ち、直線状にのびる先端が環状を呈する。引手の一部とみられる。741は環状を呈する2つの破片が鎖のようにかみ合っている。銜とみられる。742は2重の鎖がかみ合った様子から兵庫鎖とみられる。

#### 土器（第44図）

土器には、須恵器、土師器がある。土師器は提瓶があるが、残存状況が悪く、図化することはできなかった。須恵器には蓋杯、椀、高杯、平瓶がある。743～745は杯蓋で、743と744は口径はよく似ているが、天井部の形状や調整技法に差異がみられ、745はやや口径が大きい。杯身は口径がやや大きく口縁部の立ち上がりが若干高いもの（746）と口径が小さく口縁部の立ち上がりが低く短いもの（747）がみられる。椀（748）は、体部が底部より直立して立ち上がり、回転カキメが施されている。749・750は高杯の蓋で、天井部にツマミの付かないものの（749）と偏平なツマミの付くもの（750）がみられる。751・752は有蓋長脚高杯で、いずれも口縁部は低く短く、また脚部には筋状の透かし穴が穿たれている。平瓶（755）は口縁部を欠く。軟質焼成のため、外面が磨耗しており、調整の残存状況はあまり良好とはいえない。

#### （4）小結

4号墳のように小規模な胴張りの無袖式石室は、山田古墳群A 2号墳や蓮華谷古墳群（II）



第45図 骨蔵器出土状況及び実測図

6号墳などが知られるが、徳島県内ではあまり多くはない。地域的には板野町から上板町にかけての阿讃山麓にかけてに偏る。また他の古墳の副葬品と比較した場合、本墳は馬具をはじめとする鉄製品や、玉類の数や質の面で充実しており、相違点が認められる。

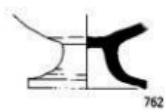
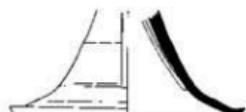
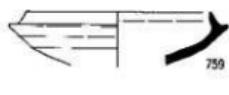
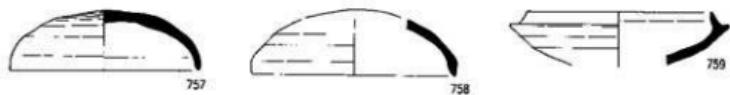
4号墳出土の須恵器は、大きく2つに分けることができる。1つは杯身746のように口縁部の立ち上がりがやや高いもので、もう一つは杯身747や有蓋長脚高杯751、752のようにひくものである。残存状況から考えて、これがそのまま築造時期や埋葬回数を表しているとは考えにくいことから、最低2回の埋葬が行われたとするにとどめたい。

#### その他の遺構・遺物

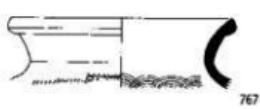
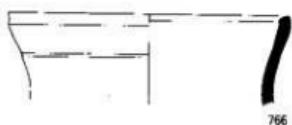
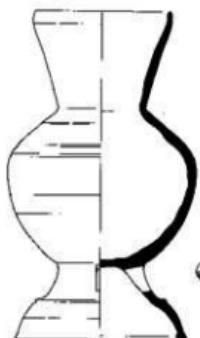
##### (1) 火葬墓

火葬墓は、4号墳の南の尾根先端に近い地点（D3グリッド）で検出された。地山を掘削した掘り方を持ち、掘り方は直径21cm、深さ7cmが残存していた。掘り方内には骨蔵器が埋納されており、掘り方と骨蔵器の間には、明黄褐色砂質土が堆積していた（第45図）。検出時には、体部下半が掘り方内にあり、体部上半から口縁部にかけてはその大半が削平のために失われており、一部が残存する下半部に落ち込んでいるだけであった。また骨蔵器内の堆積土には骨片が多く含まれていたが、その他に土師器片が若干含まれており、本来は土師質の土器で蓋が行われていたことが考えられる。

骨蔵器（756）は、口径9.8cm、体部最大径15.0cm、器高14.5cmの須恵器の短頸壺で、内面



761



0 10cm

第46図 遺構に伴わない遺物

には強い回転ナデが施されていた。なお骨蔵器内より検出された土師質の土器は、摩滅していたため図化できなかった。

## (2) 遺構に伴わない遺物（第46図）

本古墳群では、検出された主体部のすべてが盜掘によるとみられる擾乱を受けていたこともあって、遺構以外から出土した遺物が多い。そのほとんどは調査区東側斜面や4号墳の南側斜面であり、特に4号墳の南側にあたるC6、D6といったグリッドが多い。以下で代表的なものを図示し、特徴などを記述しておく。

757～759は蓋杯で、757は口縁端部付近に1条の凹線が巡っている。760は有蓋高杯である。外面には黒色の自然釉がみられ、受部には蓋の端部が釉着している。761は長脚高杯の脚部である。3方に方形の透かし穴が穿たれ、裾部には1条の弱い凹線が巡っている。762は短脚高杯で、軟質焼成のため残存状況は良くない。763は台付壺である。口頸部は直線状に外側へ開くが、端部はやや内側に屈曲させている。体部には上位に1条、中位に2条の凹線が施されているが、上位の1条は弱い。脚部は中位で大きく屈曲させているが、その部分にやや鋭い稜を巡らせてあり、2方に方形の透かし穴が穿たれている。764は横瓶で、体部下半は残存していないが、俵状を尾する体部の1面には回転カキメが、もう1面には回転ヘラ削りが施されている。765～767は甕で、いずれも口頸部のみ残存している。765は、丸い模様を巡らせ、2段の斜線文が施されている。外面には黒色の自然釉がみられる。766は中位に1条の凹線を巡らせ、外面には灰色の自然釉がみられる。767は体部の一部が残存する。体部外面には格子タタキが、内面には同心円タタキが施されている。768は壺の底部で、断面方形の高台が付いている。

757～767までは古墳に伴うものとみられるが、768は火葬墓が構築された時期に近いものとみられる。

## 3 まとめ

### (1) 外部施設について

墳丘はいざれも地山整形を行った後、盛り土を行うという方法で構築されているが、細部にはそれぞれ異なる点がみられる。まず1号墳では、砂質土を20～30cmの厚さで盛って墳丘を構築しているのに対して、2号墳と4号墳では盛土を行なうにあたって、まず炭化物混じりのシルトまたは砂質土を薄く敷き、叩き締めて基底部を構築した後盛土を行っている。特に

2号墳では、墳丘南側の開口部側は地山面が低いため、盛土の厚さが厚くなるのに対応して、この工程を3度繰り返している。

掘り方は、盛土がある一定の高さに達した時点で掘削されたものと考えられる。いずれの主体部も削平を受けており、また擾乱が大きいために完全に盛土が残存しているわけではないため、どの段階から掘削が始まったかについては明らかにしがたい。ただ4号墳では墳丘基底部の薄い層が、石室内の壁体の裏込め土の上面にまでみられることから、地山整形面より掘削し始め、ある程度壁体を構築した後、墳丘を構築しつつさらに壁を積み上げていったことが考えられる。

周溝については、1、2号墳は、尾根鞍部を掘削せず嶺部に構築し、3、4号墳は尾根鞍部を切って構築しており、構築法が異なる。

## (2) 石室について

1～3号墳についてはいずれも平面プランが長方形に近い。袖部の形態は、1号墳は不明であるが、2号墳と3号墳は両袖式である。4号墳は、胴張り形の平面プランを持つ無袖式の石室で、壁は2段目以降隅丸に構築されている。また2号墳と4号墳は仕切石を持つが、1号墳、3号墳は持たない。

床面櫛床は1号墳と4号墳しか残存していない。1号墳では、床面の櫛床に用いられる砂岩櫛が、20cm大のものと30～45cm大で板状のものからなり、それぞれ玄空空間内で占める位置が異なることから、櫛の大きさや敷き方で埋葬空間を分けたものと考えられるが、4号墳では櫛の大きさや敷き方による空間の区分は認められない。なお主軸方向については、すべての古墳が尾根に沿う方向に主軸を設定しており差異は認められない。

## (3) 遺物について

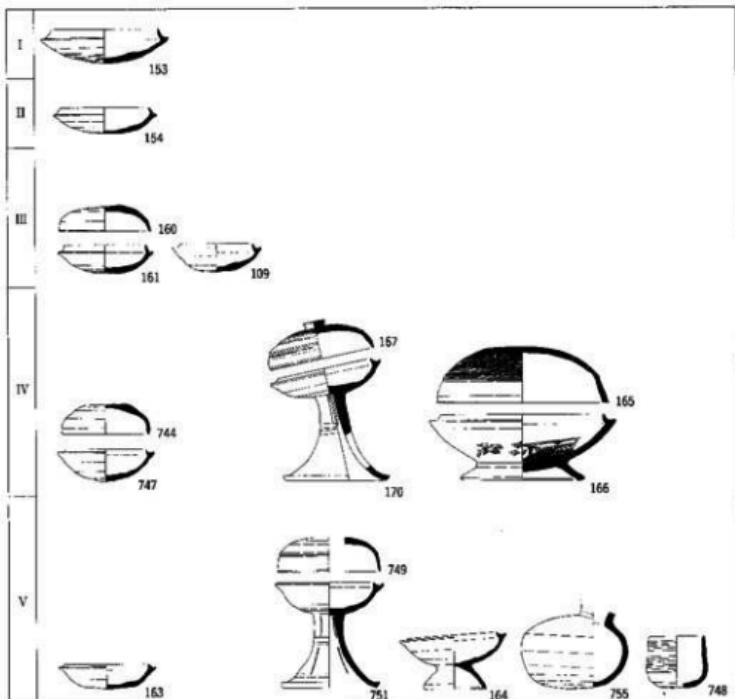
### 装身具

装身具は、1、2、4号墳から出土している。2号墳からはガラス玉しか検出されなかつたが、1号墳では、耳環、ガラス玉と練玉が、4号墳では耳環、ガラス玉、練玉のほかトンボ玉やガラス製の管玉も検出されている。徳島県内での練玉の出土例の中で、出土状況の明確なものは、菖蒲谷西山B遺跡4号墳例のほか、蓮華谷古墳群（II）5号墳例や山田古墳群A1号墳例、同3号墳、同1号石室墓がある。これらの古墳においては、いずれも装身具をはじめとする副葬品が豊富であることが共通点として挙げられる。またその出土状況もガラス玉が石室内の特定の地点に集中することが多いのに対して、練玉は比較的広い範囲で検出

されることが多い。しかし、蓮華谷古墳群（II）5号墳ではほとんどが棺内遺物と考えられるが、西山B 4号墳例ではその可能性が低いこともあり、今後の出土例の増加を待って、その副葬形態や用途について検討すべきものと考える。

#### 須恵器

須恵器は、その形態からI～Vの5段階に分けることができる。I期の須恵器は、2号墳蓋杯153がこれにあたる。口径15.3cm、器高4.9cmと大きく浅い杯身で、口縁部の立ち上がりが高く長い。また外面の回転ヘラ削りも単位が細かく丁寧に施されている。II期の須恵器は、I期に比べてやや小振りになり、外面の回転ヘラ削りも粗くなる。2号墳蓋杯154がこれにあたる。口縁部の立ち上がりはI期に比べてやや低く短くなる。III期の須恵器は、口径がさらに小さくなり、杯身は深くなるが、口縁部の立ち上がりはII期と同様である。1号墳蓋杯109、



第47図 蓬萊谷西山B遺跡における須恵器の変遷

3号墳蓋杯160、161がこれにあたる。IV期の須恵器は、蓋杯がさらに深くなり、口縁部の立ち上がりは低く短くなる。4号墳747がこれにあたる。この段階においてみられるのは、3号墳高杯170～172のように、方形の透かし穴を2方2段に持ち、上段と下段では透かし穴が直交する方向に穿たれている。この中には170や171のように胎土が非常に粗く、重みの大きいものも含まれている。また165・166のように徳島県内ではあまり例のない大形の短脚高杯もみられる。V期の須恵器は、蓋杯が3号墳163のように口縁部の立ち上がりがIV期よりもさらに低く短くなる。また有蓋高杯の口縁部も同様の傾向を示している。有蓋長脚高杯は、IV期のものとは透かし穴の形態が異なる。V期の有蓋長脚高杯は、筋状の透かし穴を2方2段に持つが、その方向は上段下段とも同じ方向である。また高杯の蓋には、天井部と口縁部との境に稜線が巡っており、やや古い要素を残している。これらのI～V期は、陶邑編年では、I期がMT85型式に、II～III期がTK43型式に、IV～V期がTK209型式にそれぞれ対応するものと考える。

#### 鉄器

1号墳が鐵と刀を、2号墳が鐵と刀子、鎌を、3号墳が刀子を、4号墳が鐵、刀子、鎌、馬具を持つ。鐵はいずれの古墳も方頭鐵または主頭鐵を持つが、2号墳と4号墳ではその組成が異なる。2号墳では三角形鐵や長頭鐵に加えて方頭鐵が1本含まれるが、4号墳では方頭鐵の本数や占める割合が高い。また4号墳では、柳葉鐵とともに透かし孔を持つ方頭鐵がみられ、片丸造の三角形鐵などとともにこれまで徳島県内で確認されている古墳副葬鐵と比べて趣が異なる。さらに4号墳は石室は小規模であるにもかかわらず鉄器が豊富で、馬具を持つことも注目される。また1古墳群中にみられる刀、馬具、農工具といった鉄製品が共伴することなく別々の主体部に副葬されていることは、蓮華谷古墳群（II）でも同様の傾向を示すが、階層差等の反映という可能性も考えられる。

方頭鐵・主頭鐵は、四国ではTK10併行期瀬戸内海沿岸において採用されはじめ、TK43併行期以降盛んに用いられる形式である<sup>(1)</sup>。しかし徳島県においては、TK43併行期の段階ではまだ多くは用いられず、多量に用いられるようになるのはTK209併行期の段階になってであり、瀬戸内地域とは若干の時間差が認められる。

徳島県のTK43併行期の副葬鐵は、その組成より2群に分けることができる。三角形鐵、腸抉三角形鐵と長頭鐵という組み合わせを基本として構成されるA群と、A群の組成にさらに方頭鐵・主頭鐵を合わせ持つB群である。A群では、石井町ひびき岩17号墳例<sup>(2)</sup>、板野町蓮華谷（II）3号墳例、同土壤墓例<sup>(3)</sup>、海南町大里1号墳例、美馬町願勝寺1号墳例<sup>(4)</sup>、山田古墳群A1号墳例などが挙げられ、B群では、石井町ひびき岩16号墳例<sup>(5)</sup>、蓮華谷（II）5号墳例、山田古墳群A2号墳<sup>(6)</sup>などが挙げられ、本古墳群1号墳例、2号墳例は後者に属

するものである。A群では、三角形鐵はすべて平造であり、地域的には徳島県全域に、時期的にはTK43併行期全体にみられる。B群では、三角形鐵には平造のものに混じって片丸造のものがみられる。方頭鐵または主頭鐵を合わせ持つが、その数は1本のみという例が多く、山田古墳群A2号墳のように4本も副葬する例は希である。地域的にはほとんどが板野・上板といった阿讃山麓地域を中心に分布し、時期的にもTK43併行期でも新しい段階に属する。

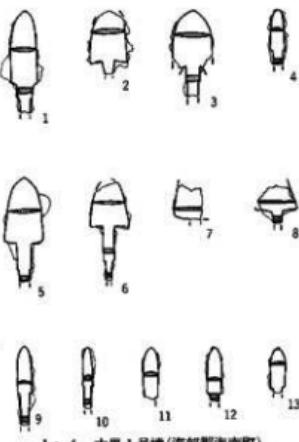
TK209併行期になると、急激に方頭鐵・主頭鐵の割合が高まる。柳葉鐵や片刃・鑿箭の長頸鐵など新しい形式のものが加わるという変化もみられ、TK43併行期の鉄鐵とは趣を異にする。本古墳群4号墳例は、従来の三角形鐵、脇挟三角形鐵、方頭鐵、鐵身體部が長二角形を呈する長頸鐵に加えて、柳葉鐵や片刃・鑿箭といった長頸鐵が新たに加わる。柳葉鐵には片丸造や両丸造などがあり、三角形鐵にも片丸造のものが、方頭鐵には透かし穴を持つものがみられる。また柿谷3号墳、同12号墳副葬鐵は方頭鐵のみで構成され、山田A3号石室墓副葬鐵は、方頭鐵と片刃の長頸鐵で構成される。この段階においては、方頭鐵や主頭鐵の占める割合が急激に高まり、平根鐵や長頸鐵の鐵身體部にもヴァリエーションが豊富になる。

TK209併行期の副葬鐵は、現在上板町所在のものしか確認されていないため、これをもって徳島県全域にあてはめることは適当ではないが、TK43併行期における方頭鐵・主頭鐵の導入が板野・上板といった阿讃山麓地域において最も顕著であることや、その傾向がTK209併行期により強まっていることから、この地域が方頭鐵・主頭鐵をはじめとする新しいタイプの鉄鐵の玄関口であることは十分考え得ることである。

徳島県の古墳副葬鐵が、TK43併行期までの鉄鐵が緩やかな変化をみせていたのに対し、TK209併行期に急激な変化をみせることは、徳島県の古墳被葬者やその集団に対する鉄鐵供給ルートの変化を反映したものと考えられる。

#### (4) 築造順序について

前述した須恵器の形態の変遷より、本古墳群の形成過程を復元すると、①2号墳が築造される。②2号墳で追葬が行われる。③3号墳と1号墳が築造される。④3号墳の追葬と4号



第48図 TK43併行期の鉄鐵

墳の築造が行われる。⑤3号墳の追葬と4号墳の追葬が行われる。という順に形成され、その役割を終えたものと考えられる。この①を6世紀後半に、⑤を6世紀末から7世紀初頭にかけての時期と考えたい。

本古墳群の特徴は、1～3号墳と4号墳との間に石室形態その他の面において大きな差異がみられるという1点に集約される。まず1～3号墳は平面形が長方形を呈するのに対し、4号墳は胴張りの無袖式石室である。本古墳群の周囲の古墳群では、横穴式石室の平面形は柿谷遺跡や山崎古墳群でみられるように胴張り形や隅丸形が多く、長方形は少ない。一方胴張りの無袖式石室は、板野・上板という阿讚山麓地域では比較的よくみられるものである。須恵器については、3号墳の大形有蓋短脚高杯などは徳島県内では例をみないものであり、一方4号墳の有蓋長脚高杯は柿谷7号墳例とよく似た筋状の透かし孔を有する。また鉄器の形式や組成では、1～2号墳では方頭鐵は少数であるのに対して、4号墳では大量に副葬されており、TK209併行期以降の副葬鐵の変化を明瞭に反映している。

以上のように1～3号墳と4号墳は、石室形態のみならず副葬品およびその組成の面でも大きな違いがある。それはこの地域の中で特異な個性を持つ古墳から、周辺の古墳群との共通の性格を強めたものへの変化である。このような変化が起こる時期は、板野、上板両地域の古墳群のほとんどが衰退する一方で、柿谷遺跡が秩序だって形成されていく時期にあたる。このことは、7世紀初頭前後の阿讚山麓地域において、氏族集團の再編をも含む大きな変革がおこったことを表わしているのかも知れない。

#### 注

- (1) 須崎一幸「徳島県下古墳出土の鉄器について」『真朱』第2号 1994
- (2) 「ひびき岩古墳群-17号墳発掘調査-」『徳島県文化財調査概報』昭和54年度 徳島県教育委員会 1980
- (3) 「蓮華谷古墳群(II)・蓮華池遺跡(I)」四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4 財團法人 徳島県埋蔵文化財センター 1994
- (4) 石丸 洋「徳島県美馬群願勝寺1号墳」『古代学研究』56号 1969
- (5) 「ひびき岩16号墳」石井町教育委員会 1986
- (6) 本報告書所収

## 遺物觀察表

第1表 SM1001耳環計測表

番号	縦径(mm)	横径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
1	30.0	24.0	8.0	8.0	29.23	両芯研磨り、のち鍍金
2	30.5	23.0	7.5	8.0	31.38	両芯研磨り、のち鍍金
3	22.7	25.4	4.2	4.2	▲4.52	両芯のみ残存
4	20.1	22.7	4.1	2.9	▲1.06	両芯のみ残存

第2表 SM1001ガラス玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
5	A	9.20	5.00	1.90	0.62	緑色	孔に平行	両面研磨
6	A	8.86	6.90	2.00	0.82	緑色	孔に平行	両面研磨
7	A	8.73	6.65	1.40	0.78	緑色	孔に平行	両面研磨
8	A	8.35	6.40	1.70	0.58	緑色		両面研磨
9	A	6.35	9.00	2.70	0.73	緑色		両面研磨
10	A	7.90	2.45	2.40	0.30	緑色	孔に平行	両面研磨
11	B	4.90	3.70	1.20	0.13	緑色		両面研磨
12	B	4.85	2.80	1.30	0.09	緑色		孔付近のみ研磨
13	B	4.70	2.90	1.30	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
14	B	4.65	2.85	1.60	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
15	B	4.63	3.05	1.10	0.09	緑色		孔付近のみ研磨
16	B	4.60	3.00	1.50	0.10	緑色		孔付近のみ研磨
17	B	4.60	2.90	1.20	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
18	B	4.60	3.55	1.40	0.10	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
19	B	4.60	3.15	1.30	0.09	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
20	B	4.55	3.80	1.20	0.13	緑色		両面研磨
21	B	4.55	3.30	1.20	0.10	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
22	B	4.55	3.10	1.50	0.09	緑色		孔付近のみ研磨
23	B	4.50	3.35	1.65	0.10	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
24	B	4.50	2.80	1.60	0.07	緑色		孔付近のみ研磨
25	B	4.50	3.20	1.30	0.09	緑色		孔付近のみ研磨
26	B	4.45	2.85	1.10	0.09	緑色		孔付近のみ研磨
27	B	4.45	3.10	1.20	0.09	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
28	B	4.40	2.85	1.10	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
29	B	4.40	3.05	1.40	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
30	B	4.35	3.40	1.20	0.09	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
31	B	4.35	3.00	1.20	0.08	緑色		孔付近のみ研磨、突起あり
32	B	4.25	3.15	1.10	0.08	緑色		孔付近のみ研磨
33	B	4.75	2.50	1.80	0.07	緑色		両面研磨

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
34	C	3.30	1.55	1.20	0.02	褐色		孔付近のみ研磨
35	C	3.30	1.70	1.10	0.02	褐色		両面研磨
36	C	3.20	1.60	1.30	0.02	褐色		両面研磨
37	C	2.60	1.50	0.80	0.01	青青		孔付近のみ研磨
38	D	5.10	3.60	1.30	0.12	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
39	D	4.40	2.95	1.70	0.08	あさぎいろ		両面研磨
40	D	4.30	2.45	1.10	0.06	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
41	D	3.95	2.40	1.30	0.04	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
42	D	3.85	1.70	1.40	0.03	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
43	E	3.90	2.25	1.20	0.03	にああみどり		孔付近のみ研磨
44	E	3.50	1.85	1.30	0.03	にああみどり		孔付近のみ研磨
45	E	2.75	1.80	1.00	0.03	にああみどり		両面研磨
46	F	3.30	2.80	1.60	0.04	さびあきざ		孔付近のみ研磨
47	F	3.00	2.55	1.00	0.03	さびあさざ		孔付近のみ研磨
48	F	2.70	1.40	1.10	0.01	さびあさざ		孔付近のみ研磨
49	G	5.10	2.40	2.50	0.08	こみどり		孔付近のみ研磨
50	H	5.20	2.90	1.60	0.09	うすき		孔付近のみ研磨
51	I	4.20	2.90	1.60	0.07	あいいろ		孔付近のみ研磨
52	I	3.90	2.85	1.20	0.06	あいいろ		孔付近のみ研磨
53	I	3.70	1.90	1.10	0.04	あいいろ		孔付近のみ研磨
54	I	3.55	1.95	1.40	0.04	あいいろ		孔付近のみ研磨
55	I	3.50	1.90	1.20	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
56	I	3.50	2.05	1.30	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
57	I	3.45	2.80	1.30	0.05	あいいろ		孔付近のみ研磨
58	I	3.30	1.90	1.20	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
59	I	3.20	2.00	1.10	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
60	I	3.10	1.90	0.90	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
61	I	3.10	1.90	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
62	I	3.10	1.30	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
63	I	3.05	1.55	1.60	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
64	I	3.00	1.50	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
65	I	3.00	1.70	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
66	I	3.00	1.40	1.10	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
67	I	2.95	1.70	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
68	I	2.90	2.00	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
69	I	2.90	2.00	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
70	I	2.90	1.70	1.10	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
71	I	2.90	1.95	0.90	0.03	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
72	I	2.90	1.05	1.20	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
73	I	2.80	1.50	1.20	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
74	I	2.80	1.50	0.90	0.02	あいいろ	一	両面研磨
75	I	2.80	2.05	0.70	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
76	I	2.75	1.60	0.80	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
77	I	2.70	1.70	1.00	0.02	ばどういろ	一	孔付近のみ研磨
78	I	2.70	1.20	1.20	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
79	I	2.60	1.40	1.10	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
80	I	2.60	1.35	0.80	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
81	I	2.60	1.45	0.90	0.02	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
82	I	2.50	1.90	1.00	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
83	I	2.50	1.50	0.90	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
84	I	2.45	1.90	0.80	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
85	I	2.35	1.50	0.80	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
86	I	2.30	1.80	0.80	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
87	I	2.30	1.10	0.80	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨
88	I	2.30	1.55	1.20	0.01	あいいろ	一	孔付近のみ研磨

第3表 SM1001練玉計測表

番号	分類	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
89	A	7.40	6.25	1.50	▲0.32	
90	A	7.20	6.70	2.00	0.39	
91	A	7.00	5.85	1.30	0.27	
92	B	7.40	5.85	1.60	0.33	
93	B	7.30	5.85	1.40	▲0.27	
94	B	7.20	5.65	1.80	0.30	
95	B	6.90	5.90	1.80	0.28	
96	B	6.85	5.95	1.60	0.27	
97	B	6.70	5.90	2.20	0.26	
98	B	6.60	5.60	1.80	0.25	
99	B	6.05	5.50	1.40	0.25	
100	B	5.75	4.70	1.30	▲0.16	孔付近黒色なし
101	C	6.95	5.30	1.70	0.26	
102	C	6.65	5.80	1.40	0.30	

番号	分類	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備考
103	C	6.15	3.50	1.60	0.12	孔付近黒色なし
104	D	6.20	7.00	2.80	0.27	

第4表 SM1001鉄器計測表

番号	種類	出土地点	法 量	備 考
105	鉄刀	石室内	刀身幅2.9cm 刀身厚1.4cm 残存長6.0cm	
106	鉄錠	石室堆土	錠身部 残存長2.6cm 幅1.4cm 厚4.6mm 錠底 幅4.8mm 厚4.2mm	錠部に若干木質が認められる
107	鉄錠	石室堆土	西存長2.1cm 幅9.2cm 厚3.1cm	

第5表 SM1001須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
108 第12回 図版7	蓋 杯 箸	石室床面 土上	口徑 13.8 残存高 2.5	口縁部はやや小さく削出し、尖端状に外下刃へり、底部はやや丸い。	切削ナギ。	出土 容器 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 瞬針目り
109 第12回 図版7	蓋 杯 身	蓋部 身部 身	口徑 10.3 身部 12.6 身高 4.1	口縁部に外反気味に彫り、底部はやや底部内側に凹凸状へテリ取り。 や削り。尖部は外上方へ延び、底部は丸形ナギ。 は丸い。 底部は丸いが、中央部はやや平坦。		出土 容器 良好。 色調 外面 青灰色 (部分的に青灰色) 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 瞬針目り
110 第12回 図版7	身 付 身	周溝	脚径 11.8 残存高 2.9	脚部は倒円形に下り、底部に至る。 底部附近に1条の縦が通る。	切削ナギ。	出土 容器 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明

第6表 SM1002ガラス玉計測表

番号	分類	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	色調	気泡	備考
111	A	4.65	2.95	2.40	0.06	ダーピーブルー		両面研磨
112	B	4.55	3.40	1.80	0.09	ダーピーブルー	孔に平行	両面研磨、孔縁円
113	C	5.10	2.95	2.40	0.11	インキブルー	孔に平行	両面研磨
114	C	4.55	2.70	1.30	0.07	蔚青		両面研磨
115	C	4.10	2.55	1.30	0.06	紺		両面研磨
116	D	4.25	2.05	1.00	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨、孔縁円
117	D	3.90	2.20	1.40	0.04	さびあさぎ		両面研磨
118	D	3.85	2.65	1.20	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
119	D	3.85	2.15	1.40	0.04	さびあさぎ		両面研磨、孔縁円
120	D	3.80	2.80	1.30	0.06	さびあさぎ		孔付近研磨、孔縁円

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
121	D	3.25	2.65	1.10	0.04	きびあさぎ		孔付近研磨
122	D	3.65	2.20	1.50	0.04	きびあさぎ		孔付近研磨、孔周囲
123	D	3.60	2.40	1.30	0.04	きびあさぎ		孔周辺研磨
124	D	3.45	2.60	1.20	0.04	きびあさぎ		孔付近研磨、孔周囲
125	D	3.45	2.40	1.70	0.03	きびあさぎ		孔付近研磨、孔周囲
126	D	3.20	2.50	1.20	0.04	きびあさぎ		両面研磨、孔周囲
127	D	3.20	2.25	1.20	0.03	きびあさぎ		孔付近研磨
128	D	3.15	2.60	1.20	0.03	きびあさぎ		孔付近研磨
129	D	2.90	2.70	1.10	0.04	きびあさぎ		孔周辺研磨
130	E	4.40	3.40	1.10	0.08	わさびいろ		両面研磨
131	E	4.15	2.80	1.30	0.07	わさびいろ		孔付近研磨、孔周囲
132	E	4.00	2.00	1.30	0.04	わさびいろ		両面研磨
133	F	4.90	3.45	1.60	0.09	なんじいろ	孔に平行	両面研磨、孔周囲
134	F	4.45	3.20	1.30	0.08	なんじいろ		両面研磨
135	G	3.80	2.05	1.20	0.64	あさぎいろ		両面研磨
136	G	3.35	1.90	1.30	0.04	あさぎいろ		孔付近研磨
137	G	3.40	1.50	1.30	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
138	H	3.25	1.95	1.00	0.03	あいいろ		孔付近研磨
139	H	3.00	1.70	1.10	0.04	あいいろ		両面研磨
140	H	2.35	2.35	1.00	0.02	あいいろ		孔付近研磨

第7表 SM1002鉄器計測表

番号	種類	出土地点	全長(cm)	鍔身部(cm)		鍔被部(cm)			茎部長(cm)	備考
				長	幅	厚	長	幅		
141	鉄鎌	繩文土	▲5.70	5.70	2.50	0.30	▲0.45	0.90	▲0.25	鍔部欠損、茎部欠損
142	鉄鎌	石室内	▲3.90	▲3.10	2.10	0.35	▲0.70	0.70	0.40	鍔部欠損、茎部欠損
143	鉄鎌	石室内	▲1.90	▲1.90	2.70	0.20	—	—	—	鍔部先端のみ残存
144	鉄鎌	石室内	▲7.20	—	—	—	▲3.30	0.90	0.40	3.70 鍔身部欠損
145	鉄鎌	石室内	▲2.60	—	—	—	▲2.60	0.70	0.45	鍔被部のみ残存
146	鉄鎌	石室内	▲2.60	—	—	—	▲2.60	0.50	0.50	鍔被部のみ残存
147	鉄鎌	石室填土	▲2.60	—	—	—	—	—	—	▲2.60 鍔部のみ残存
148	刀子	繩文土	▲6.20	刀部長▲5.10cm 程1.40cm 厚0.30cm			—	—	▲1.10	鍔残存
149	刀装具	石室填土	▲1.60	残存高1.90cm 厚0.30cm			—	—	—	—
150	曲刃鎌	石室内	▲8.70	幅1.90cm 厚0.30cm			—	—	—	先端と折り返し部を欠く
151	曲刃鎌	石室埋土	▲3.10	幅2.10cm 厚0.20cm			—	—	—	先端のみ残存 150と同一個体の可動性あり

第8表 SM1002須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
152 第20回 回版4	蓋 杯	石室内 墓丘	口径 16.5 底存高 3.4	口縁部は僅かに内凹しつつあり、 底部附近でわずかに膨張して直線状 に下る。横部はやや丸い。	回版ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回版 不明
	身					
153 第20回 回版11	蓋 杯	石室内 墓部外 側立	口径 19.3 受部径 18.2 底存高 4.9	口縁部は外反気味に立ち上がり、端 部はやや弧い。 受部は外方へ水平に亘り、底部はや や弧い。立ち上がり部に1条の凹 縫が来る。 底部は底く丸い。	底部外反回版へラ削り。 他は回版ナダ。 のち底部内面側へ一定方向ナダ。	胎土 密。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回版 時計回り
	身					
154 第20回 回版11	蓋 杯	石室内 墓丘	口径 12.7 受部径 14.4 底存高 3.7	口縁部は内側に立ち位置で内側に 周囲して外反気味に立ち上がり、端 部は弧い。 受部は水平に外方へ亘り、底部はや や弧い。 底部は底く平坦。	底部外反回版へラ削り。 他は回版ナダ。	胎土 粗。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回版 時計回り
	身					
155 第20回 回版11	蓋 口	石室内	口径 7.2 体部 最大深 13.2 底存高 12.6	口縁部は直立して上方へ延び、底部 は丸い。 体部は直線的に外下方へ下り、中位 で大きく折曲して内凹気味に直線に 至る。 底部は底く平坦。	底部外反回版へラ削り。 他は回版ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回版 時計回り
	身					
156 第20回	蓋 瓶 蓋	墓丘 盗掘痕	口径 7.7 体部 最大深 14.0	口縁部は直く直立して上方へ延び、底部 は丸い。 体部は直線的に外下方へ下り、中位 で折曲する。	回版ナダ。	胎土 密。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回版 不明
157 第20回	瓶	塚丘	口径 5.9 底存高 4.4	口縁部は外反のち内凹気味に上方へ 延び、底部は丸い。	回版ナダ。	胎土 密。 焼成 良好。 色彩 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回版 不明
	蓋					

第9表 SM1003鉄器計測表

番号	種類	出土地点	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部厚 (cm)	備考
158	刀子	石室内壁裏	▲6.60	1.10	0.50	刃先のみ挫挫

第10表 SM1003須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
第27回 回版17	蓋 片	深溝	口径 13.6 底存高 4.2	口縁部はやや外反気味のち内凹しつ つなり。底部に弧。底部はやや丸 い。 天井部はやや高く平坦。 大井部外側にヘラ記号あり。 若干歪みあり。	天井部外反回版へラ削り。 他は回版ナダ。 のち天井部内面側へ一定方向ナダ。	胎土 密。 焼成 やや不良。 色彩 外面 切削済色 内面 明青色 ロクロ回版 反対斜回り
	身					

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
160 第27回 図版17	蓋 杯	盃鉢坑	口径 13.1 唇高 3.8	口縁部はやや外反弧線に外下方へ下り、端部は丸い。天井部は低く、平坦。	天井部外側四隅へテ割り。 他は刃仕ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 灰色 ロクロ印板 略計121
161 第27回 図版17	蓋 杯	盃鉢部	口径 11.8 受容部 13.5 唇高 4.1	口縁部はやや外反弧線に高く立ち上がり、端部はやや使い。受部は外方へ水平やや上方に張り、端部は浅瀬はやや低い。底部は丸いが、中央部はやや平穏。	底面外側四隅へテ割り。 他は刃仕ナダ。 のち底面部内面不整方向ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 ロクロ印板 略計121
162 第27回 図版17	蓋 杯	盃鉢坑	口径 11.3 受容部 13.0 唇高 3.7	口縁部は内傾して外反弧線に立ち上がり、端部は圓い。受部は外やや上方へのび、端部は長い。底部は仄く平穏。	底面外側四隅へテ割り未調査。 他は刃仕ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 灰色 ロクロ印板 略計121
163 第27回 図版17	蓋 杯	盃鉢部	口径 12.1 受容部 13.7 唇高 3.6	口縁部は仄く内傾して立ち上がる。端部は丸い。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。底部は仄く平穏。	底面内面四隅へテ割り未調査。 他は刃仕ナダ。	胎土 やや粗。 焼成 やや不良。 色調 外面 青灰色 内面 灰色 ロクロ印板 略計121
164 第27回 図版17	高 杯	盃鉢部	口径 12.8 受容部 15.1 唇高 8.1	口縁部は内傾してのち唇曲して仄く上方へ延びる。端部はやや低い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。底部は丸く、側杯形に脚部が延びる。脚部の歪み大。	杯形、底面外側四隅へテ割り。 他は刃仕ナダ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗白色 内面 青灰色 ロクロ印板 不明
165 第27回 図版17	高 杯	盃鉢部 盃鉢坑	口径 24.8 唇高 8.0	口縁部は直線的に外下方へ下り、端部は半円形を持つ。天井部は高く丸い。口縁部と大井部は丸みを帯びた蝶様によって分けられる。外縁の大部分に自然動かし。天井部外側に重ね壓きの痕跡あり。	大井部外側平行タキのち刃仕カキメ。 他は刃仕ナダ。 のち大井部内面不整方向ナダ。	胎土 硬。 焼成 良好。 色調 外面 黑色 内面 灰色 ロクロ印板 不明
166 第27回 図版17	高 杯	盃鉢部 盃鉢坑 頸丘	口径 23.5 受容部 26.7 唇高 9.5	杯部 口縁部は仄く外反して立ち上がり、端部は圓い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。天井部は深く丸い。脚部 杯部の底部より外反弧線の内面寄りに斜めに張り出る。端部は歪み大。受部に削成時の擦痕があり。	底部外側平行タキのち刃仕カキメ。 他は刃仕ナダ。 のち底部内面に強い不整方向ナダ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 黑色 内面 青灰色 ロクロ印板 不明
167 第27回 図版17	高 杯	盃鉢部 盃鉢坑	口径 15.1 唇高 5.5 ツマミ径 3.1	口縁部は内傾しつつ外下方に下り、端部付近でわずかに外反する。端部は丸い。天井部は丸い。天井部と口縁部はやや深い蝶様によって分けられる。天井部には複数のツマミが付く。外縁のはば1/2に自然動がある。	大井部外側四隅カキメ。 他は刃仕ナダ。	胎土 硬。 焼成 良好。 色調 外面 暗白色 内面 暗白色 ロクロ印板 不明
168 第27回 図版17	高 杯	盃鉢部	口径 14.0 唇高 5.3 ツマミ径 3.5	口縁部は内傾しつつアリ、端部は丸い。天井部は丸い。中央部は平坦。天井部と口縁部は丸い動脈によって分けられる。天井部に複数のツマミが付く。外縁のはば1/2に自然動があり。	刃仕ナダ。	胎土 硬。 焼成 不良。 色調 外面 暗白色 内面 暗白色 ロクロ印板 不明

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
169 第27回 図版17	高 杯 蓋	普通部	口径 14.8 底厚 3.7	口縁部はやや内凹気味に外下方へド リ、縫合は深い。 天井部と口縁部は丸い被膜によって 分けられる。 外表面に自然粒あり。	回転ナヂ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 黑灰色 断面 茶褐色 ロクロ回転 不明
170 第27回 図版17	高 杯 身	普通部	口径 13.6 受部径 16.1 底厚 14.4 底高 17.2	杯部 口縁部は近く外反気味に立ち 上がり、縫合は深い。受部は外上方 へ飛び、縫合部はやや深い。底部は丸 いが深い。 脚部 基部よりわずかに外反しつつ 下り、中位より大きく外方へ開く。 中位又2条の比較が張り、2万2段の の重ねの重ねし穴が穿たれている。 外表面のほぼ全体に自然粒あり。 受部に焼成時の物音あり。	回転ナヂ。	胎土 やや粗。 焼成 やや不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
171 第27回 図版17	高 杯 身	普通部	口径 13.4 受部径 15.6 底厚 13.4 底高 17.2	杯部 口縁部は近く外反気味に立ち 上がり、縫合は深い。受部は外上方 へ飛び、縫合部はやや深い。底部は丸 いが深い。 脚部 基部よりわずかに外反しつつ 下り、中位より大きく外方へ開く。 中位又2条の比較が張り、2万2段の の重ねの重ねし穴が穿たれている。 外表面に自然粒あり。	回転ナヂ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 黑灰色 断面 茶褐色 ロクロ回転 不明
172 第27回 図版17	高 杯 身	普通部 底部	口径 13.4 受部径 13.6 底厚 12.7 底高 15.3	杯部 口縁部は近く外反しつつ立ち 上がる。縫合は深い。受部は外上方 へ飛び、縫合部は丸い。 底部 基部より直線的につなぐ。中位 より大きく外方へ開く。中位に2条の の比較が張り、2万2段の重ねし穴 が穿たれている。底部のほぼ全面と 脚部の一部に自然粒あり。	回転ナヂ。	胎土 粗。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 茶褐色 ロクロ回転 不明
173 第27回 図版17	横 盤	普通部 底部	口径 7.8 底厚 15.0	口縁部は基部より外反しつつ立ち上 り、中位より外反気味に崩壊に至 る。縫合部は段を有し、凹面となっ ている。底部は扁平な球形をなし、側 面にボタン状の起手を貼り付ける。	体部外面回転ヘラ削り (小舟部は回 転が弱い)。 体部内面エビ押さえ。 他は回転ナヂ。	胎土 粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗青灰色 内面 青灰色 断面 背灰色 ロクロ回転 反時針回り
174 第27回 図版17	平	普通部	口径 6.1 体部 最大径 14.8 底高 15.2	1(縫合部は基部より外反気味に立ち上 り、底部付近で若干内凹する。 体部は腰やかに内反しつつ下り、中 位で大きく屈曲して底部に至る。底 部は後く平坦。 体部上面に一舟跡状の把手が付く。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナヂ。	胎土 粗。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 晴計四回

第11表 SM1004耳環計測表

番号	縦径 (mm)	横径 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
175	29.3	32.5	7.0	7.5	22.02	剥苔剥り、のち鍍金か?

第12表 SM1004ガラス玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
176	A	8.15	6.70	1.80	0.52	緑色	孔に平行	両面研磨、孔横円
177	A	7.90	5.95	1.20	0.53	緑色	孔に平行	両面研磨
178	A	7.60	4.90	2.00	0.38	緑色		両面研磨、孔横円
179	B	6.80	5.20	1.80	0.35	あいいろ	孔に平行	両面研磨、孔横円
180	C	4.70	3.00	1.10	0.09	緑色		突起あり
181	C	4.70	3.20	1.20	0.09	緑色		突起あり
182	C	4.70	2.85	1.20	0.08	緑色		
183	C	4.65	2.95	1.10	0.08	緑色		突起あり
184	C	4.50	3.10	1.10	0.09	緑色		片面孔付近研磨
185	C	4.45	3.20	1.10	0.09	緑色		片面孔付近研磨
186	C	4.45	3.35	1.20	0.07	緑色		片面研磨あり
187	C	4.45	3.00	1.20	0.08	緑色		突起あり
188	C	4.40	3.20	1.20	0.09	緑色		片面孔付近研磨
189	C	4.40	2.80	1.10	0.07	緑色		片面研磨あり
190	D	3.95	3.60	1.50	0.07	あさぎいろ		緑色の極点あり
191	E	3.40	3.45	1.30	0.06	あさぎいろ		管切り被法による
192	F	4.25	2.35	1.60	0.05	あさぎいろ		孔付近研磨
193	F	3.70	1.95	1.40	0.04	あさぎいろ		孔付近研磨
194	F	3.50	1.50	1.40	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨、孔横円
195	F	3.65	1.40	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
196	F	2.95	1.40	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
197	F	2.45	2.30	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
198	G	3.65	3.00	1.20	0.05	にぶあおみどり		孔付近研磨
199	G	3.50	2.95	1.00	0.05	にぶあおみどり		孔付近研磨
200	H	4.20	2.50	1.30	0.06	さびあさぎ		孔付近研磨
201	H	3.95	2.95	1.00	0.07	さびあさぎ		孔付近研磨
202	H	3.85	3.25	1.10	0.07	さびあさぎ		両面研磨
203	H	3.60	2.80	1.00	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
204	H	3.20	3.00	1.00	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
205	H	3.10	1.90	1.00	0.02	にぶみどり		孔付近研磨
206	H	3.40	3.15	1.00	0.05	さびあさぎ		両面研磨
207	H	3.85	2.05	1.10	0.03	さびあさぎ		孔付近研磨
208	H	3.25	2.00	1.00	0.03	さびあさぎ		両面研磨
209	I	3.90	1.70	1.00	0.01	わさびいろ		孔付近研磨
210	J	4.30	2.75	1.40	0.07	うすき		孔付近研磨
211	J	3.40	2.00	1.10	0.01	うすき		孔付近研磨

第13表 SM1004線玉計測表

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備考	番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備考
212	8.70	5.85	1.90	0.44	丸付近黒色なし	248	7.90	6.15	1.20	0.43	
213	8.70	6.80	1.65	▲0.46		249	7.90	6.05	1.40	0.32	
214	8.60	6.40	1.50	0.42		250	7.90	6.05	1.80	▲0.42	
215	8.60	6.55	1.50	▲0.47		251	7.90	6.90	1.40	▲0.38	
216	8.50	5.95	1.70	0.44		252	7.85	5.70	1.30	0.40	丸付近黒色なし
217	8.50	7.10	0.80	▲0.42		253	7.85	5.75	1.20	0.39	丸付近黒色なし
218	8.40	7.70	1.30	0.32		254	7.85	6.10	1.40	0.38	
219	8.30	5.95	1.20	0.44		255	7.85	6.20	1.40	▲0.43	
220	8.30	6.35	1.60	0.37		256	7.85	6.40	1.60	▲0.39	
221	8.30	6.75	1.50	0.49		257	7.85	6.40	1.50	▲0.42	
222	8.30	6.95	1.20	0.47		258	7.85	6.95	1.40	▲0.41	
223	8.20	6.20	1.30	0.48		259	7.85	7.15	1.30	▲0.36	
224	8.20	6.25	1.40	0.43		260	7.80	5.40	1.90	0.38	
225	8.20	6.50	1.40	0.46		261	7.80	5.90	1.40	0.41	
226	8.20	7.80	1.90	▲0.43		262	7.80	6.10	1.10	▲0.41	
227	8.10	5.20	2.10	0.38		263	7.80	6.15	1.40	▲0.37	
228	8.05	5.55	1.90	0.37		264	7.80	6.15	1.80	▲0.38	
229	8.05	6.05	1.30	0.40		265	7.80	6.30	1.20	0.38	
230	8.05	6.20	1.60	0.42		266	7.80	7.10	1.30	0.40	
231	8.05	6.40	1.80	0.44		267	7.80	7.55	1.40	▲0.45	
232	8.05	6.50	1.40	▲0.33		268	7.75	5.25	1.80	0.34	
233	8.00	5.95	1.30	▲0.39		269	7.70	5.45	1.40	▲0.36	
234	8.00	6.05	1.50	0.39		270	7.70	5.60	1.40	0.36	
235	8.00	6.40	1.65	0.43		271	7.70	6.00	1.30	0.37	
236	8.00	6.40	1.40	▲0.43		272	7.70	5.80	1.10	0.33	
237	8.00	6.70	1.20	0.42		273	7.70	6.00	1.60	0.43	
238	7.95	6.50	1.40	0.47	丸付近黒色なし	274	7.70	6.25	1.60	▲0.32	丸付近黒色なし
239	7.95	5.85	2.30	0.38		275	7.70	6.45	1.60	0.35	
240	7.95	7.25	1.95	▲0.44	丸付近黒色なし	276	7.70	7.60	1.60	0.35	
241	7.90	-----	2.10	▲0.33		277	7.65	5.50	1.65	0.33	
242	7.90	5.25	2.40	▲0.27		278	7.65	5.70	1.20	0.30	
243	7.90	5.75	1.40	▲0.37		279	7.65	5.95	1.40	0.39	
244	7.90	5.90	1.80	0.40		280	7.65	6.10	1.40	▲0.36	
245	7.90	5.90	1.20	▲0.28		281	7.65	6.20	2.20	0.38	
246	7.90	5.90	1.20	▲0.32		282	7.65	6.25	1.10	0.39	
247	7.90	5.90	1.20	▲0.38		283	7.65	6.25	1.30	▲0.34	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
284	7.60	5.40	1.10	0.32	
285	7.60	5.60	1.20	▲0.28	
286	7.60	3.75	1.40	0.36	孔付近黒色なし
287	7.60	5.75	1.70	▲0.35	
288	7.60	5.80	1.20	0.39	
289	7.60	5.80	1.40	0.34	
290	7.60	5.90	1.10	▲0.30	
291	7.60	5.95	1.40	0.36	
292	7.60	6.05	1.60	0.37	孔付近黒色なし
293	7.60	6.10	1.20	0.30	
294	7.60	6.20	1.30	0.38	
295	7.60	6.20	1.30	0.41	孔付近黒色なし
296	7.60	6.30	1.80	0.33	
297	7.60	6.45	1.20	0.39	
298	7.60	6.60	1.40	0.37	
299	7.60	6.65	1.20	0.42	
300	7.60	6.70	1.50	0.38	
301	7.60	6.85	1.40	0.36	
302	7.60	7.00	1.20	0.37	
303	7.60	▲4.65	1.10	▲0.24	
304	7.55	5.40	1.20	0.33	
305	7.55	5.85	1.20	▲0.32	
306	7.55	5.85	1.50	▲0.35	
307	7.55	5.90	1.20	0.33	
308	7.55	6.30	1.70	▲0.32	
309	7.55	6.70	1.50	0.38	
310	7.55	6.70	1.20	0.41	
311	7.50	4.80	1.65	▲0.28	
312	7.50	5.65	1.30	▲0.35	
313	7.50	5.70	1.00	0.33	
314	7.50	5.80	1.60	0.29	
315	7.50	5.85	1.30	0.33	
316	7.50	5.85	2.00	0.36	
317	7.50	6.00	1.20	0.30	
318	7.50	6.25	1.50	0.36	
319	7.50	6.30	1.40	0.31	
320	7.50	6.30	1.20	0.39	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
321	7.50	6.80	1.20	0.10	
322	7.50	6.85	1.40	0.36	
323	7.50	6.85	1.10	0.39	
324	7.50	6.85	1.30	0.30	
325	7.50	6.90	1.30	▲0.40	
326	7.45	—	1.10	▲0.24	
327	7.45	—	1.30	▲0.28	
328	7.45	5.85	1.40	▲0.33	
329	7.45	5.95	1.30	0.30	
330	7.45	6.00	2.60	0.30	
331	7.45	6.00	1.60	0.36	孔付近黒色なし
332	7.45	6.00	1.30	▲0.38	孔付近黒色なし
333	7.45	6.10	1.45	0.32	
334	7.45	6.20	1.40	0.36	
335	7.45	6.30	2.10	0.38	
336	7.45	6.45	1.20	0.35	
337	7.40	5.15	1.10	0.29	孔付近黒色なし
338	7.40	5.55	1.00	▲0.31	
339	7.40	5.70	1.20	0.34	
340	7.40	5.80	1.20	0.36	
341	7.40	6.05	2.20	0.34	
342	7.40	6.10	1.28	0.30	孔付近黒色なし
343	7.40	6.20	1.80	0.38	
344	7.40	6.60	1.80	0.34	
345	7.40	6.70	1.60	▲0.36	
346	7.40	6.85	1.20	0.40	
347	7.40	7.10	2.50	▲0.49	
348	7.35	5.55	1.80	0.27	
349	7.35	5.85	1.30	0.31	
350	7.35	5.70	2.00	0.36	
351	7.35	5.75	1.10	0.35	孔付近黒色なし
352	7.35	5.95	1.70	0.32	
353	7.35	6.15	1.20	0.37	
354	7.35	6.25	1.30	0.30	
355	7.35	6.25	1.30	0.31	
356	7.35	6.25	1.20	0.35	
357	7.30	4.50	1.30	0.28	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考	番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
358	7.30	5.50	1.30	0.30		395	7.20	6.15	1.40	0.30	
359	7.30	5.50	1.20	0.30		396	7.20	6.15	1.40	0.33	
360	7.30	5.65	1.40	0.28		397	7.20	6.15	1.50	0.34	
361	7.30	5.70	1.40	0.31		398	7.20	6.20	1.60	0.22	
362	7.30	5.75	2.00	0.25		399	7.20	6.20	1.20	▲0.33	
363	7.30	5.80	2.20	0.27		400	7.20	6.30	1.60	0.32	
364	7.30	5.85	1.60	▲0.29		401	7.20	6.60	1.20	0.33	
365	7.30	5.90	1.20	0.30		402	7.15	5.20	1.10	0.28	
366	7.30	6.00	1.70	0.33		403	7.15	5.35	1.60	0.29	
367	7.30	6.10	1.40	0.35		404	7.15	5.50	1.40	0.29	
368	7.30	6.15	1.20	0.36		405	7.15	5.50	1.40	0.31	孔付近黒色なし
369	7.30	6.20	1.40	0.35		406	7.15	5.70	1.20	0.30	
370	7.30	6.40	1.30	0.36		407	7.15	5.90	1.40	0.32	
371	7.30	6.50	1.40	▲0.33		408	7.15	5.95	1.20	0.30	
372	7.25	5.15	1.30	0.29		409	7.15	6.10	1.40	0.34	孔付近黒色なし
373	7.25	5.25	1.10	0.30	孔付近黒色なし	410	7.15	6.30	1.60	0.34	
374	7.25	5.70	0.80	0.31		411	7.15	6.30	1.70	▲0.33	
375	7.25	5.90	1.50	0.33		412	7.15	6.55	1.10	▲0.28	
376	7.25	6.00	1.80	0.32		413	7.10	3.30	1.20	0.31	孔付近黒色なし
377	7.25	6.45	1.40	▲0.36		414	7.10	5.45	1.70	▲0.29	
378	7.25	6.75	1.40	0.40		415	7.10	5.55	1.40	▲0.28	
379	7.25	6.85	1.40	0.37		416	7.10	5.70	1.20	0.25	
380	7.25	6.95	2.20	0.38		417	7.10	5.95	1.80	0.28	
381	7.20	5.15	1.30	0.32	孔付近黒色なし	418	7.10	6.10	1.20	0.28	
382	7.20	5.30	1.10	0.32		419	7.10	6.10	1.20	0.29	
383	7.20	5.55	1.60	0.27		420	7.10	6.15	1.40	0.33	
384	7.20	5.60	1.50	0.28		421	7.10	6.15	1.70	▲0.27	
385	7.20	5.60	1.30	▲0.28		422	7.10	6.20	1.40	0.32	
386	7.20	5.60	1.40	▲0.30	孔付近黒色なし	423	7.10	6.30	1.20	0.31	
387	7.20	5.65	1.20	0.31		424	7.10	6.30	2.10	0.32	
388	7.20	5.70	1.40	0.30		425	7.10	6.50	1.60	▲0.32	
389	7.20	5.75	1.80	0.28		426	7.10	6.50	1.40	0.32	
390	7.20	5.80	1.50	0.25		427	7.10	6.65	2.40	0.34	
391	7.20	5.85	1.20	0.34		428	7.10	7.00	1.50	0.39	
392	7.20	5.85	1.20	0.35		429	7.10	7.40	1.40	▲0.31	
393	7.20	6.05	1.60	▲0.30		430	7.10	8.15	1.80	0.47	
394	7.20	6.10	1.20	0.31		431	7.10	▲6.50	1.20	▲0.31	孔付近黒色なし

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考	番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
432	7.05	5.35	1.70	0.29		469	6.90	4.75	0.70	0.22	
433	7.05	5.50	1.30	0.32		470	6.90	5.15	1.25	0.30	
434	7.05	5.50	1.60	0.36		471	6.90	5.20	1.40	0.26	
435	7.05	5.60	1.30	0.29		472	6.90	5.25	1.40	0.28	
436	7.05	5.70	1.40	0.27		473	6.90	5.30	1.00	0.25	
437	7.05	5.70	1.50	▲0.26		474	6.90	5.40	1.50	0.24	
438	7.05	5.95	1.00	0.31		475	6.90	5.50	1.20	0.30	
439	7.05	6.20	1.40	▲0.33		476	6.90	5.55	1.40	▲0.24	
440	7.05	6.25	2.20	0.28		477	6.90	5.65	1.20	0.26	
441	7.05	6.30	2.00	0.29		478	6.90	5.75	1.60	0.23	
442	7.00	5.30	1.20	0.25	孔付近黒色なし	479	6.90	5.85	1.40	▲0.28	
443	7.00	5.30	1.20	▲0.25		480	6.90	5.95	1.40	▲0.21	
444	7.00	5.45	1.40	0.27		481	6.90	6.15	1.20	0.30	
445	7.00	5.45	1.40	0.31	孔付近黒色なし	482	6.90	6.55	1.30	0.30	
446	7.00	5.50	1.20	0.30		483	6.90	6.55	1.25	0.32	
447	7.00	5.80	1.50	0.33		484	6.90	7.15	1.60	▲0.32	
448	7.00	5.80	1.10	0.35		485	6.90	▲5.45	1.50	▲0.22	
449	7.00	5.95	1.20	0.28		486	6.85	4.80	1.60	0.21	
450	7.00	6.25	1.40	0.31		487	6.85	5.00	1.30	0.25	孔付近黒色なし
451	7.00	6.40	1.80	0.33		488	6.85	5.20	1.20	0.27	
452	7.00	6.45	1.40	0.29		489	6.85	5.20	1.10	▲0.23	
453	7.00	6.50	1.50	0.32		490	6.85	5.25	1.20	0.26	
454	7.00	6.55	1.40	0.33		491	6.85	5.50	1.00	0.27	
455	7.00	6.70	1.20	0.34		492	6.85	5.60	2.00	0.26	
456	7.00	6.75	1.30	0.32		493	6.85	5.60	1.40	▲0.23	
457	6.95	5.15	1.60	0.24		494	6.85	5.75	1.60	0.22	
458	6.95	5.30	1.70	▲0.27		495	6.85	5.75	1.20	0.31	
459	6.95	5.35	1.30	0.29		496	6.85	5.90	1.60	0.33	
460	6.95	5.30	1.60	0.25		497	6.85	6.15	1.20	0.32	
461	6.95	5.50	1.20	▲0.28		498	6.85	6.45	1.30	0.31	
462	6.95	5.80	1.60	0.27		499	6.85	6.45	1.51	▲0.29	
463	6.95	5.80	1.30	▲0.23		500	6.80	4.30	1.20	0.21	
464	6.95	5.90	1.40	▲0.23		501	6.80	5.00	1.20	0.22	
465	6.95	5.95	1.30	0.31		502	6.80	5.20	0.80	0.25	
466	6.95	6.00	1.40	0.30		503	6.80	5.30	2.10	0.19	
467	6.95	6.80	1.50	0.34		504	6.80	5.45	0.80	0.27	
468	6.95	7.10	1.20	0.39		505	6.80	5.60	1.20	0.30	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
506	6.40	5.70	1.10	0.27	
507	6.40	5.70	1.40	0.29	孔付近黒色なし
508	6.40	5.75	1.40	0.29	
509	6.40	5.80	1.20	0.28	
510	6.40	5.85	1.20	0.29	
511	6.40	6.35	1.10	0.30	
512	6.40	6.55	1.60	0.31	
513	6.40	6.70	1.20	0.35	
514	6.75	4.75	1.30	0.24	
515	6.75	4.95	1.60	0.19	
516	6.75	5.00	0.80	0.22	
517	6.75	5.20	1.80	▲0.24	
518	6.75	5.45	1.20	0.25	
519	6.75	5.70	1.40	0.22	
520	6.75	5.70	1.40	0.32	孔付近黒色なし
521	6.75	5.85	1.40	0.30	
522	6.75	5.90	1.60	0.26	
523	6.75	5.95	1.10	0.30	
524	6.75	5.95	1.00	0.30	
525	6.75	6.05	1.80	0.22	
526	6.75	6.30	1.30	0.31	
527	6.75	6.85	1.40	0.34	孔付近黒色なし
528	6.75	▲6.85	1.40	▲0.24	
529	6.70	4.50	1.60	▲0.24	
530	6.70	5.20	1.30	0.25	
531	6.70	5.20	1.20	0.26	
532	6.70	5.40	1.20	0.26	
533	6.70	5.50	1.10	0.26	
534	6.70	5.55	1.20	▲0.27	
535	6.70	5.65	0.90	0.27	
536	6.70	5.65	1.80	0.28	
537	6.70	5.70	1.40	0.25	
538	6.70	5.75	1.80	0.24	
539	6.70	5.75	1.10	0.28	
540	6.70	5.75	1.40	▲0.25	
541	6.70	6.05	1.80	▲0.28	
542	6.70	6.10	1.70	0.26	裏が目あり

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
543	6.70	6.20	1.60	0.32	
544	6.70	6.50	1.40	0.30	
545	6.70	6.70	1.50	0.31	
546	6.70	6.70	2.00	0.33	
547	6.70	6.90	1.60	0.29	
548	6.70	6.95	1.40	▲0.32	
549	6.65	4.85	1.20	0.25	
550	6.65	5.90	1.30	0.25	
551	6.65	5.10	1.40	▲0.23	
552	6.65	5.15	1.10	0.25	
553	6.65	5.40	1.10	0.26	
554	6.65	5.45	1.90	0.19	
555	6.65	5.50	1.10	0.26	
556	6.65	5.85	1.20	0.26	
557	6.65	6.00	1.10	▲0.24	
558	6.65	6.25	1.20	0.26	
559	6.60	4.60	1.10	0.19	
560	6.60	4.65	1.65	0.19	
561	6.60	4.90	1.40	0.29	
562	6.60	5.25	1.00	0.23	
563	6.60	5.50	1.40	0.21	
564	6.60	5.50	1.80	0.21	
565	6.60	5.50	0.90	0.23	
566	6.60	5.60	1.10	0.27	
567	6.60	5.70	1.10	0.22	
568	6.60	5.90	1.40	0.29	
569	6.60	6.00	1.20	▲0.27	
570	6.60	6.10	1.22	0.28	
571	6.60	6.15	1.40	▲0.27	
572	6.60	6.20	1.20	0.26	
573	6.60	6.25	1.80	0.31	
574	6.60	6.25	2.00	0.33	
575	6.60	6.35	1.40	0.29	
576	6.60	6.35	1.20	0.30	
577	6.60	6.45	1.70	0.32	
578	6.60	6.60	1.05	0.35	
579	6.55	5.10	0.80	0.23	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
580	6.55	5.25	1.10	▲ 0.24	
581	6.55	5.25	1.20	▲ 0.27	
582	6.55	5.45	1.40	0.26	
583	6.55	5.45	1.10	0.26	
584	6.55	5.85	1.40	0.27	孔付近無色なし
585	6.55	5.95	1.00	▲ 0.24	
586	6.55	6.20	1.70	0.28	
587	6.55	6.20	1.30	▲ 0.29	
588	6.55	6.45	1.60	0.36	
589	6.55	7.35	1.60	0.32	
590	6.50	5.40	1.70	0.23	
591	6.50	5.40	1.40	0.27	
592	6.50	5.50	0.80	▲ 0.20	
593	6.50	6.00	1.37	0.27	
594	6.50	6.00	0.90	▲ 0.26	
595	6.50	6.15	1.80	▲ 0.26	
596	6.50	6.30	1.10	0.39	
597	6.50	6.35	1.10	0.36	
598	6.45	5.00	1.25	0.24	
599	6.45	5.10	1.20	▲ 0.25	孔付近無色なし
600	6.45	5.40	1.90	0.27	
601	6.45	5.65	1.00	0.26	
602	6.45	5.70	0.83	0.26	
603	6.45	5.70	1.30	0.28	
604	6.45	5.80	1.30	0.27	
605	6.45	5.80	1.70	0.29	
606	6.45	6.00	1.70	0.26	
607	6.45	6.20	1.40	0.25	
608	6.45	6.35	1.30	▲ 0.27	
609	6.40	4.95	1.40	0.21	
610	6.40	5.25	1.10	0.21	
611	6.40	5.30	1.20	0.23	
612	6.40	5.35	1.20	▲ 0.24	
613	6.40	5.75	1.50	0.22	
614	6.40	5.85	1.80	0.25	
615	6.40	6.10	1.20	0.29	
616	6.40	7.80	1.30	0.32	
番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
617	6.35	5.25	1.60	0.23	
618	6.35	5.40	1.70	0.21	
619	6.35	5.70	1.40	0.21	
620	6.35	5.80	1.60	0.27	
621	6.35	6.00	1.20	0.29	
622	6.30	4.95	1.80	▲ 0.38	
623	6.30	5.40	1.20	0.22	
624	6.30	5.30	1.40	0.20	
625	6.30	5.55	1.50	▲ 0.19	
626	6.30	5.70	1.10	▲ 0.26	
627	6.30	5.85	0.80	0.27	
628	6.30	5.90	1.25	0.30	孔付近無色なし
629	6.30	5.90	1.30	0.30	
630	6.25	6.35	1.60	0.23	
631	6.20	4.70	1.10	0.19	
632	6.20	4.85	1.20	0.17	
633	6.20	5.20	1.20	0.21	
634	6.20	5.50	1.20	0.21	
635	6.20	5.50	1.20	0.33	
636	6.20	5.50	1.20	▲ 0.24	
637	6.20	5.70	1.20	0.27	
638	6.20	5.80	1.50	0.34	
639	6.20	6.15	1.40	▲ 0.25	
640	6.20	6.30	1.40	0.25	
641	6.15	4.40	0.80	0.16	
642	6.15	5.20	1.20	0.19	
643	6.15	5.40	1.80	0.21	
644	6.10	4.80	1.60	▲ 0.21	
645	6.10	5.40	1.50	▲ 0.19	
646	6.10	5.90	1.20	0.26	
647	6.05	4.80	1.50	▲ 0.15	
648	6.05	4.85	1.60	▲ 0.18	
649	6.00	4.10	0.90	0.16	
650	6.00	5.30	1.40	0.19	
651	6.00	6.10	1.20	0.24	
652	6.00	6.60	1.80	0.23	
653	5.95	4.80	1.00	0.19	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
654	5.95	5.10	1.00	0.26	
655	5.95	5.35	1.40	0.19	
656	5.85	4.95	1.20	0.17	
657	5.85	5.00	1.10	0.19	
658	5.70	4.10	0.80	0.14	
659	5.70	4.70	1.00	0.13	
660	5.70	5.85	2.00	0.26	
661	5.65	4.00	0.90	0.14	孔付近黒色なし
662	5.65	4.55	1.20	0.15	
663	5.60	4.00	0.90	0.13	
664	5.60	4.30	0.90	0.15	
665	5.60	5.35	0.60	0.26	
666	5.55	3.95	1.00	▲0.11	
667	5.50	4.25	1.10	0.14	孔付近黒色なし
668	5.50	4.30	1.20	0.12	孔付近黒色なし
669	5.50	4.60	1.10	0.15	
670	5.45	4.40	1.30	0.12	
671	5.40	4.15	1.10	0.12	
672	5.35	4.10	1.00	0.13	孔付近黒色なし
673	5.30	4.65	1.40	0.15	
674	3.30	5.85	1.10	0.23	
675	5.00	4.60	1.20	0.11	
676	7.35	10.20	1.20	0.64	2連(677)
677	7.25	—	1.30	—	2連(676)
678	6.70	9.65	1.20	▲0.45	2連(679)
679	6.75	—	1.30	—	2連(678)
680	7.10	11.50	1.40	▲0.65	2連(681)
681	7.00	—	1.20	—	2連(680)
682	7.20	9.85	1.40	0.50	2連(683)
683	7.20	—	1.40	—	2連(682)

第14表 SM1004刀子・鎌計測表

番号	種類	出土地点	残存長 (cm)	刃部			茎部長 (cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
724	刀子	石室床面	8.70	▲4.20	▲1.65	0.50	4.50	基部に木質残存
725	刀子	石室床面	8.80	▲3.50	▲1.45	▲0.90	3.30	茎部に木質残存
726	刀子	石室床面	8.20	▲5.00	1.60	0.55	▲3.70	
727	刀子	石室床面	5.40	▲5.40	▲1.10	0.30	—	
728	刀子	石室床面	8.95	▲3.90	▲1.05	▲0.45	▲5.95	茎部に木質残存
729	刀子	石室床面	8.00	▲8.00	1.30	0.50	—	
730	刀子	石室床面	9.25	▲7.95	1.30	0.45	▲1.30	
731	刀子	石室床面	7.10	▲7.10	1.25	0.45	—	
732	刀子	倒壁	3.70	—	—	—	▲3.70	茎部に木質残存
733	刀子	石室床面	3.90	—	—	—	▲3.90	茎部に木質残存
734	鎌	石室床面	4.20	▲4.20	1.80	0.35	—	
735	鎌	石室床面	3.40	▲3.40	1.80	0.45	—	

第15表 SM1004馬具計測表

番号	部位	出土地点	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	残存厚 (cm)
736	立筒	石室床面	4.35	0.60	0.60
737	板板	石室床面	4.60	1.00	0.55

番号	部位	出土地点	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	残存厚 (cm)
738	梯状	石室床面	6.05	1.00	0.95
739	梯板	石室床面	5.65	0.90	0.80
740	引手	石室床面	7.40	0.80	0.85
741	便	石室床面	3.00	0.80	0.90
742	具座頭	石室床面	5.80	0.60	0.70

第16表 SM1004鉄鎌計測表

番号	形式	出土地点	残存長 (cm)	鎌身部			鎌被部			茎部長 (cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
681	梯状鎌	石室床面	6.80	4.90	1.85	0.35	▲1.90	1.00	0.30	—	—
683	梯形鎌	石室床面	3.35	▲3.46	2.40	0.30	▲1.95	0.95	0.35	—	—
686	荷葉鎌	2次床面直上	4.20	▲1.65	2.55	0.45	1.90	1.05	0.30	▲0.65	—
687	柳葉鎌	石室床面	4.10	▲4.10	1.70	0.25	—	—	—	—	—
688	過枝二角形鎌	石室床面	6.10	▲4.90	▲2.90	0.30	▲1.45	0.85	0.50	—	—
689	過枝三角形鎌	石室床面	7.10	▲3.55	▲3.50	0.30	2.55	0.90	0.45	▲1.55	—
690	三角形鎌	石室床面	7.65	7.35	▲3.10	0.55	▲0.30	1.00	—	—	—
691	二角形鎌	石室床面	5.50	▲5.20	▲2.90	0.35	—	—	—	—	—
692	三角形鎌	石室床面	6.50	6.50	▲2.65	0.35	—	—	—	—	—
693	二角形鎌	石室床面	6.25	5.80	2.70	0.45	▲0.45	0.95	0.30	—	—
694	三角形鎌	石室床面	4.90	▲4.90	2.70	0.35	—	—	—	—	—
695	一角形鎌	石室床面	4.30	▲4.30	2.40	0.35	—	—	—	—	—
696	二角形鎌	石室床面	2.60	▲2.00	2.75	0.45	▲0.90	1.10	0.35	—	—
697	三角形鎌	石室床面	8.00	5.30	2.20	0.30	2.30	0.85	0.20	▲0.40	—
698	三角形鎌	石室床面	5.40	4.40	1.95	0.45	▲1.00	0.70	0.30	—	—
699	二角形鎌	石室床面	6.60	▲3.95	▲1.85	0.30	▲2.65	0.75	0.35	—	—
700	三角形鎌	石室床面	3.70	▲2.75	1.75	▲0.35	▲0.95	0.75	0.45	—	—
701	二角形鎌	石室床面	3.30	▲1.95	▲1.35	0.40	▲1.55	0.60	0.35	—	—
702	三角形鎌	石室床面	7.00	5.10	▲3.60	0.40	▲1.90	0.80	0.40	—	—
703	方頭鎌	石室床面	6.50	6.10	2.55	0.20	—	—	—	▲0.40	—
704	方頭鎌	石室床面	5.10	▲4.15	▲2.15	0.25	—	—	—	—	▲0.35
705	方頭鎌	門檻石下	6.70	▲3.90	▲1.60	0.30	—	—	—	—	▲2.20
706	方頭鎌	石室床面	3.40	▲3.40	▲2.95	0.35	—	—	—	—	本質生存
707	方頭鎌	石室床面	3.60	▲3.90	▲1.70	0.25	—	—	—	—	—
708	方頭鎌	石室床面	4.70	▲4.70	▲3.00	0.35	—	—	—	—	—
709	方頭鎌	石室床面	5.60	▲5.60	▲5.15	▲0.15	—	—	—	—	—
710	不明	石室床面	4.25	2.40	1.55	0.35	1.25	1.05	0.40	▲0.60	—

番号	形式	出土地点	残存長 (cm)	箇身部			箇被部			基部長 (cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
711	長頭錐	石室床面	4.25	▲2.05	1.00	0.20	▲2.20	0.60	0.30	—	—
712	長頭錐	石室床面	3.60	▲1.25	1.20	0.35	▲2.35	0.55	0.45	—	—
713	長頭錐	石室床面	3.89	▲2.25	1.10	0.15	▲1.55	0.65	0.35	—	—
714	長頭錐	石室床面	3.73	3.05	1.20	0.35	▲0.70	1.20	0.40	—	—
715	長頭錐	不明	3.95	2.80	1.10	0.35	▲1.15	0.60	0.30	—	—
716	長頭錐	石室床面	3.20	▲1.90	0.95	0.20	▲1.30	0.60	0.35	—	—
717	長頭錐	石室床面	4.20	2.45	1.25	0.30	▲1.75	0.65	0.25	—	—
718	長頭錐	石室床面	4.00	3.60	1.00	0.35	▲0.40	0.70	0.30	—	—
719	長頭錐	石室床面	4.70	3.30	0.85	0.35	▲1.40	0.50	0.45	—	—
720	長頭錐	石室床面	6.25	—	—	—	▲4.60	0.50	0.45	▲1.60	—
721	長頭錐	石室床面	5.35	—	—	—	▲4.70	0.80	0.50	▲0.80	—
722	長頭錐	石室床面	4.45	—	—	—	▲0.55	0.55	0.35	▲3.90	—
723	長頭錐	石室床面	6.25	—	—	—	▲0.85	0.55	0.35	▲5.40	—

第17表 SM1004須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
743 第44回 同版25	蓋杯	後退部	口径 11.0 深高 14.0	口縁部はほぼ直線的に下り、底部は丸い。 大井瀬外削回転ヘタ切り無鋼鑄。 他は回転ナゲ。	胎土 前。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 クロロジン 時計回り	—
744 第44回 同版25	蓋杯	後退部	口径 11.0 深高 12.4 深高 4.3	口縁部はほぼ直線上に下り、底部はやや斜め。 天井部はやや高く中央部は低く。	胎土 やや厚。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 クロロジン 時計回り	—
745 第44回	蓋杯	後退部	口径 14.3 深高 3.0	口縁部は内寄共吹に下方へ開き、底部は丸い。	胎土 稼。 焼成 具材。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 新灰 明青灰色 クロロジン 不明	—
746 第44回	蓋杯	後退部	口径 13.3 受部深 15.1 深高 3.9	口縁部は短く外反共吹に立ち上がり、底部は丸い。 受部は外上方へのび、縁部は丸い。	胎土 前。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 新灰 灰白色 クロロジン 時計回り	—
747 第44回 同版25	蓋杯	石室内 石室床 裏出	口径 12.1 受部深 13.7 深高 3.6	口縁部は外反のち短く直線状のび、縁部は斜め。 受部は外上方へのび、縁部はよい。 底部はやや深く丸い。	胎土 前。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 クロロジン 時計回り	—

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
748 第44回 回収23	高 盃	盗掘坑 表道部	口径 7.7 基高 7.5	口縁部はやや内反気味に唇部に平らる。端部は弧い。体部は底部より立ち上がり。底部はやや深く、中央部は平坦。	底部外側回転へラ削り。 体部中位に5本/1.4cmの区仮カキメ。柄は回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 針計刻り
749 第44回 回収25	高 杯	表道部	口径 14.8 基高 4.9	口縁部はやや開き気味に下り、端部付近で若干外反する。端部は丸い。大井部はやや高い。	天井部外側回転へラ削り。 柄は回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明暈灰色 内面 暗セリーブ灰青 ロクロ回転 針計刻り
750 第44回 回収25	高 杯	盗掘坑 表道部	口径 13.8 基高 4.3	口縁部はやや外反気味に開きつづり、端部はやや弧い。天井部には腰平安ツマミが付く。天井部と口縁部に弱い模様によって分けられる。外側には自然色が認められる。	天井部外側回転へラ削り。 柄は回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 やや不良。 色調 外面 暗白色 内面 灰白色 ロクロ回転 針計刻り
751 第44回 回収25	高 杯	表道部 受部座	口径 12.8 基高 15.4 直径 13.2 脚部 15.2	井部 口縁部は強く外反して立ち上がる。端部は削り。受部は外上方へのび、底部は丸い。 肩部 基部より外度しつづり、中位より大きめ外へ凹く。端部附近内側に断面三角形の段を有する。中位に弱い凹部があり、その上下に2方の筋状の窪かし穴が付いたれている。	井部外側外要回転へラ削り。 柄は回転ナゲ。	胎土 やや松。 焼成 不良。 色調 外面 明オーラーブ灰青 内面 暗青灰色 断面 明オーラーブ灰青 ロクロ回転 不明
752 第44回 回収25	高 杯	表道部	口径 13.0 受部座 15.8 底径 14.0 脚部 15.4	井部 口縁部は近く内傾して立ち上がり、端部は弧い。受部は外上方へのび、底部は丸い。 肩部 基部より外反しつづり、中位より大きめ外へ凹いて端部に並ぶ。断面内側に断面三角形の段を有する。肩部中位と底部に弱い2つの凹部があり、中位の凹部を境に2段2方に張状の窪かし穴が付いている。	回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明オーラーブ灰青 内面 暗オーラーブ灰青 ロクロ回転 不明
753 第44回	高 杯	表道部	底径 13.9 脚部高 5.8	肩部は大きく開き端部に生る。端部内側に断面三角形の段を有する。上部に弱い凹部があり、2方に方形の窪かし穴が付いている。	回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明オーラーブ灰青 内面 暗青灰色 断面 明緑灰色 ロクロ回転 不明
754 第44回	高 杯	横丘	底径 14.4 脚部高 2.1	肩部は端部に向かって大きく開く。底部は丸い。	回転ナゲ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
755 第44回 回収25	平 盃	表道部	体部 最大径 15.4 脚部高 12.7	口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は腰やかに内彎しつづり、中位で大きめ底坐して、底部に至る。底部は丸い。	底部外側回転へラ削り。 柄は回転ナゲ。	胎土 粗。 焼成 不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 淡青灰色 ロクロ回転 針計刻り

第18表 骨器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
756 第45回	盤 底 蓋	D 3 グリッド	口径 9.8 体部 最大径 15.0 底部 14.5	口縁部は強く直立して立ち上がり、 輪廓に半楕円を有する。 体部は腰やかに内寄しつつ下り、中 位で大きく屈曲して、底部に至る。 底部は深く丸い。	底部外周回転へラ原り。 他は回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 やや不良。 色調 外面 水白色 内面 灰白色 断面 灰白色 ロクロ回転 特計回り

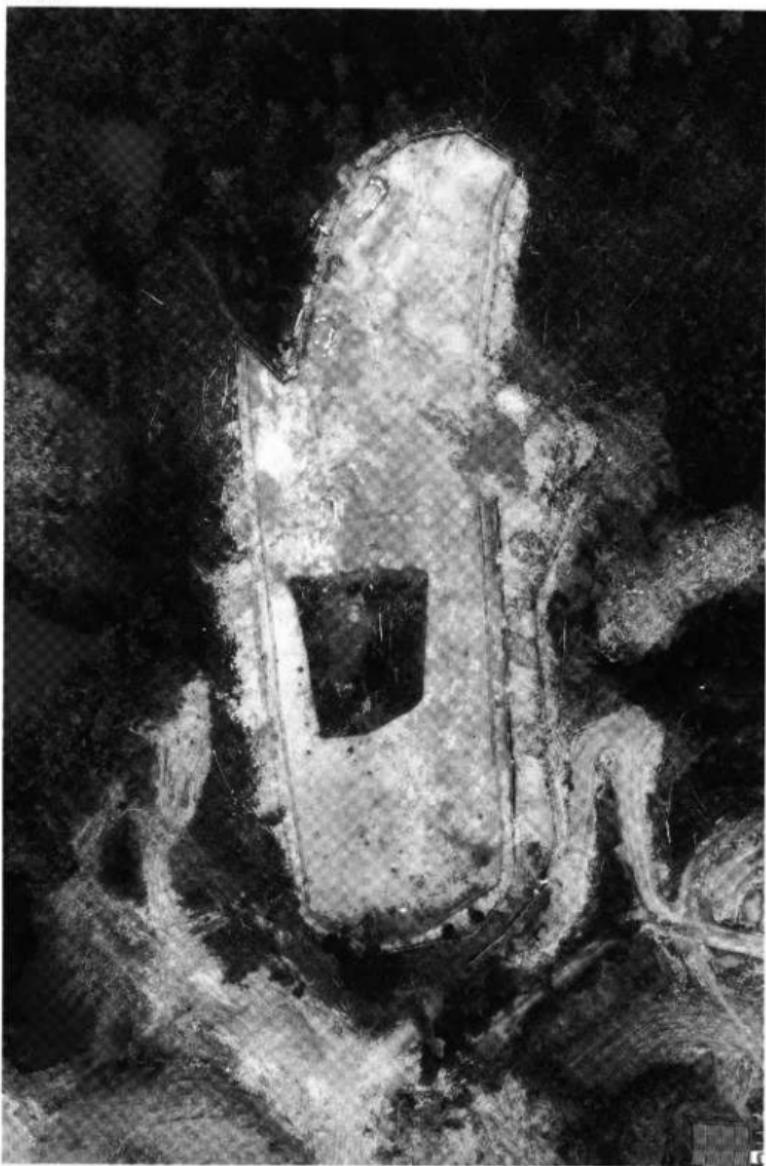
第19表 遺構に伴わない須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
757 第46回	蓋 平 蓋	C 6 グリッド	口径 13.5 第1脚 4.3	口縁部は内寄しつつ下り、底部付近 で直線的に下る。底部はやや深い。 大脚部は丸い。 輪廓内側に1条の凹線が通る。	底部外周回転へラ原り。 他は回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 良好。 色調 外面 灰褐色 内面 灰白色 断面 灰色 ロクロ回転 特計回り
758 第46回	蓋 舟 蓋	D 6 グリッド	口径 11.5 残高 4.0	口縁部は内寄しつつ下り、底部付近 で直線的に下る。底部はやや深い。		胎土 厚。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
759 第46回	西 舟 身	C 6 グリッド	口径 13.2 受部厚 15.5 残高 3.8	口縁部は内傾して立ち上がり、中位 でわずかに側面して上方へのびる。 底部はやや深い。 受部は外上方へのび、輪部はやや深 い。	底部外周回転へラ原り。 他は回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 特計回り
760 第46回	高 舟 身	4号坂東 表土	口径 11.8 受部厚 14.2 残高 3.4	口縁部は内傾し、中位で斜面して上 方へのびる。底部は低い。 受部は水平なのび、輪部はやや深い。 立ち上がり部底部に1条の沈線が通 る。外側に自然輪あり。受部に焼成 跡の點滴あり。	回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 良好。 色調 外面 黒色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
761 第46回	高 舟	4号坂西 表土	口径 16.0 残高 7.6	輪部は底部に内寄って大きく開く。 掏出近くに1条の凹線がある。 3方に方形の窓かしめが押たれてい る。	回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 断面 灰褐色 ロクロ回転 不明
762 第46回	高 舟	不明	口径 7.4 残高 3.3	輪部は外反しつつ下り、中位で大き く屈曲して輪部に至る。輪部内側に に断面三角形の段を有する。	回転ナダ。	胎土 厚。 焼成 不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 灰白色 ロクロ回転 不明
763 第46回 B1825	舟 舟 舟	4号横 北表土 南表土 3号横 横丘 西斜底 斜削狀 C 6 表土	口径 9.7 体部最大 径 13.5 残高 12.3 底部 23.6	底部：(1)輪部は体部より直線状に凹 き、(2)輪部付近で内側に屈曲して輪 部に至る。底部は丸い。体部は腰や かに内寄しつつ下り、底部に至る。底 部はやや深い。 輪部：受部の底部より外反気味に下 り、中位で屈曲して内寄しつつ輪部 に至る。輪部内側に断面三角形の段 を有する。 体部上位に1条、中位に2条の凹線 が通る。輪部にはやや深い溝が造り、 上位には方形の窓かしめが2方に穿 たれている。	底部外周回転へラ原りのち回転。 他による不 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 灰褐色 ロクロ回転 小明	

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
764 第46回	棒 底	C 6 グリッド	口径 6.3 残存高 11.5	口底部は全体より外反角度に立ち上がり、中位より内凹しつつ腹部に至る。腹部は丸い。全体は直状を示す。	全体の一面には回転ヘタ削りが、もう一面には回転カキメが施されている。 他は回転ナギ。	胎土 黒。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 焼成目付
765 第46回	壺	東古土	L径 38.6 残存高 4.7	I. 頂部は直線状に外方へ開き、半位、回転ナギ。 内やや丸い模様を有する。 下部に1条の比較的が選る。 斜縞文が2段階されている。 外面に白點相あり。		胎土 黒。 焼成 良好。 色調 外面 黑色 内面 灰色 断面 灰色 ロクロ回転 不明
766 第46回	壺	4号墳東 表土	口径 20.1 残存高 6.1	口底部は外反角度に上方へのび、輪郭付近でわずかに内窪し、のち外反しつつ腹部に下る。輪郭内面に直角面三角形の段を有する。中位に1条の回転が選る。外側に自然彌あり。	回転ナギ。	胎土 黒。 焼成 良好。 色調 外面 灰色 内面 灰白色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
767 第46回	壺	4号墳東 表土	口径 13.8 残存高 5.0	I. 頂部は外反しつつ上方へのびる。外側に直角面三角形の段を有する。	全体外表面テクスチャ。全体内面円心円柱キ。 他は回転ナギ。	胎土 黒。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
768 第46回	壺	1号墳 壇丘	高径 9.7 残存高 8.3	全体は内凹しつつ上方へのびる。頂部に断面方形の背台が付く。	頂部外表面回転ヘタ削り。 他は回転ナギ。	胎土 黒。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 青灰色 ロクロ回転 焼成目付

# 写 真 図 版

图版 1



菖蒲谷西山 B 遗迹調查区全景



第一次調査遺構

図版 3



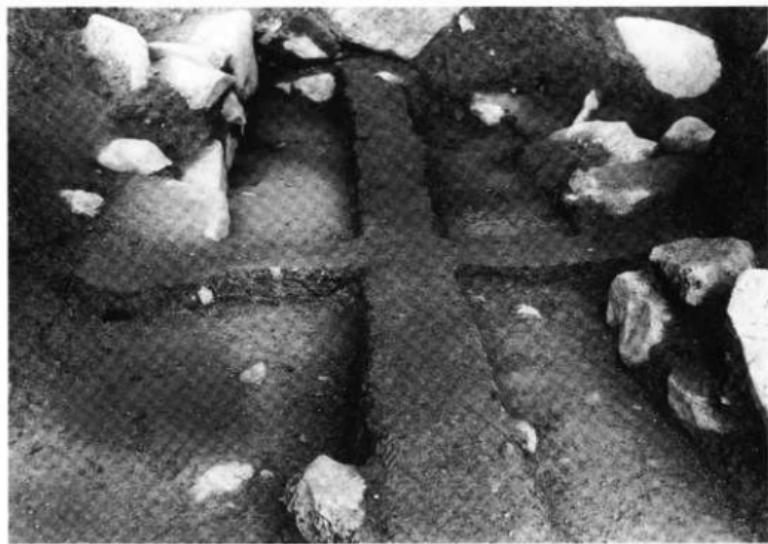
調査前遠景



調査前近景



SM1001主体部検出状況 (1)



SM1001主体部検出状況 (2)

図版 5



SM1001主体部検出状況 (3)



SM1001石室床面検出状況

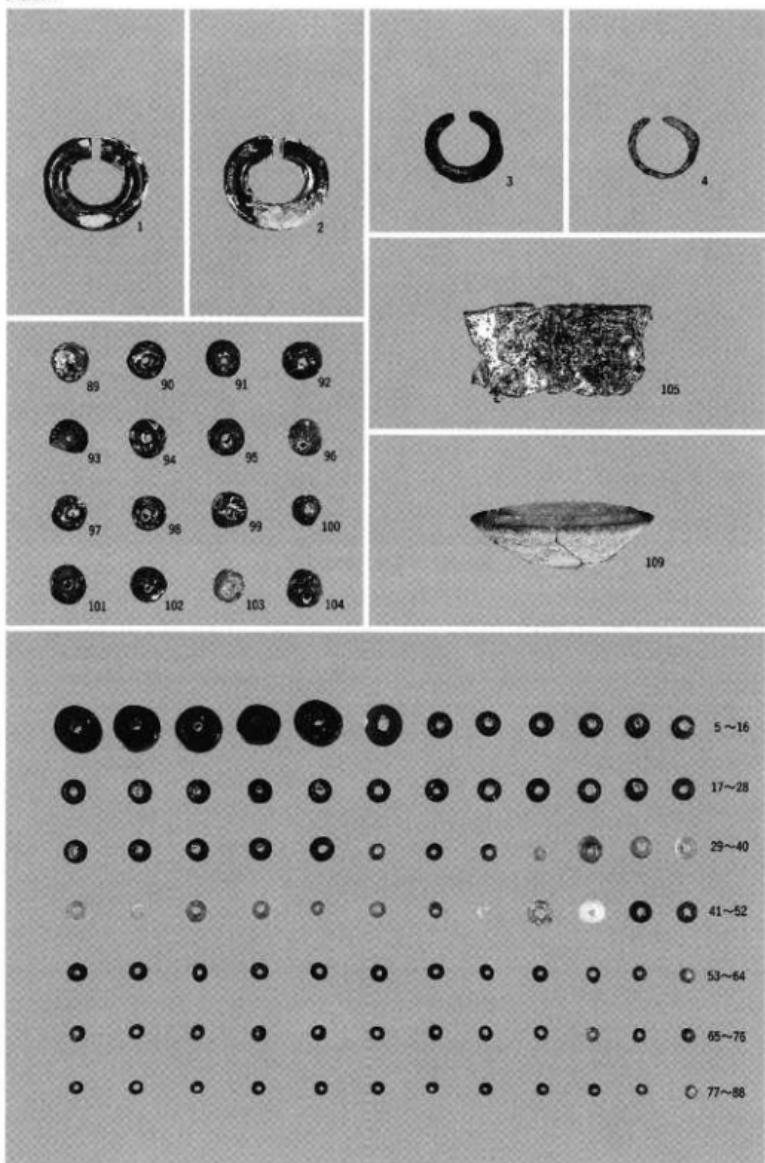


SM1001床面礫床除去状況



SM1001主体部断ち割り状況

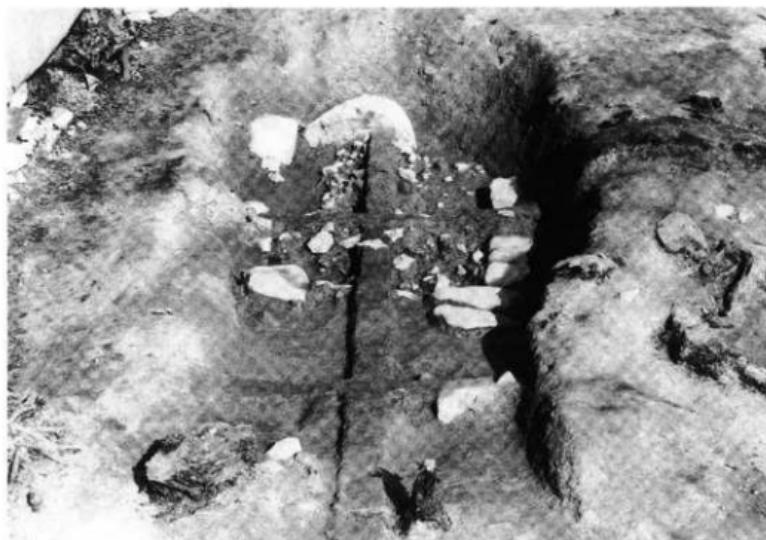
図版7



SM1001出土遺物



SM1002主体部検出状況 (1)



SM1002主体部検出状況 (2)

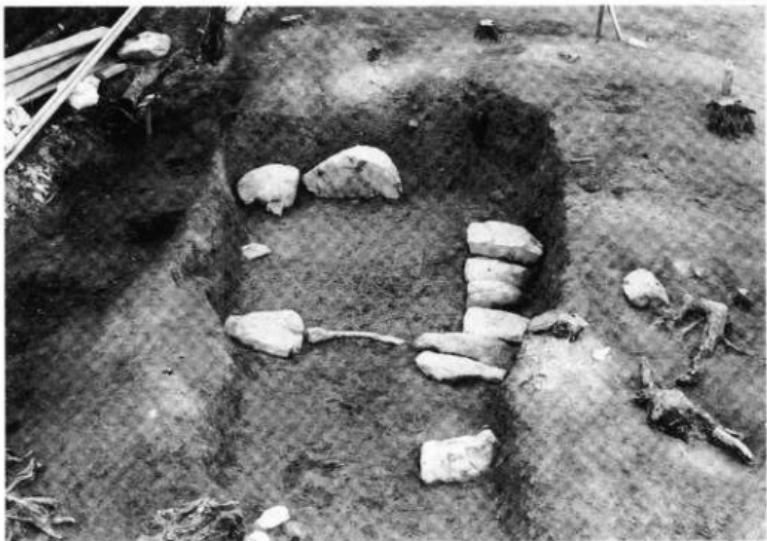
図版 9



SM1002石室床面遺物出土状況



SM1002石室床面検出状況

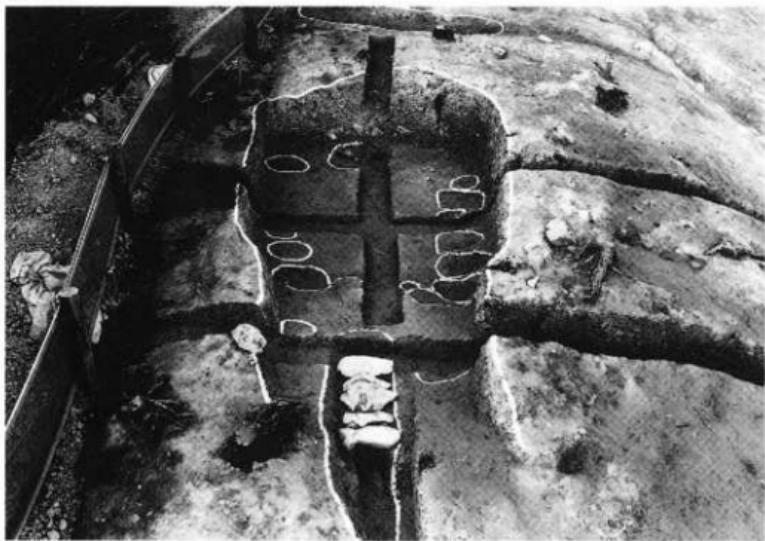


SM1002石室床面礫床除去状況

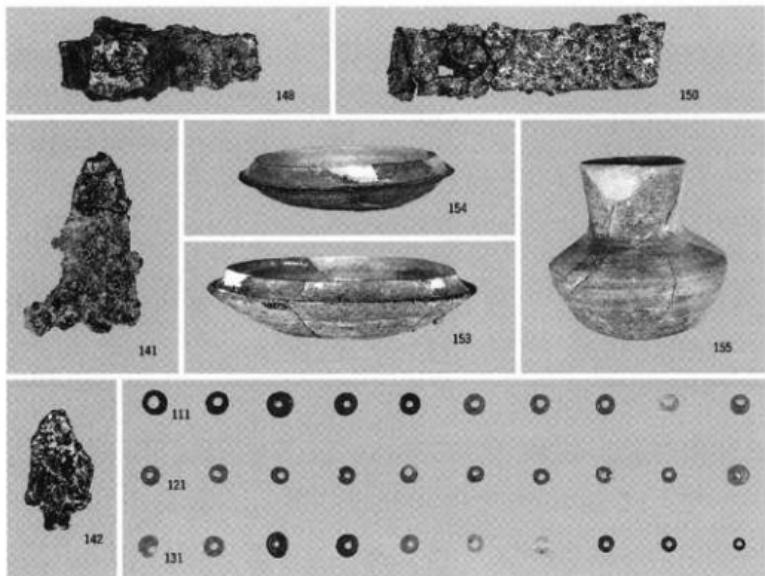


SM1002排水溝検出状況

図版11



SM1002断ち割り状況



SM1002出土遺物



SM1003主体部検出状況 (1)



SM1003主体部検出状況 (2)

圖版13



SM1003主体部検出状況 (3)



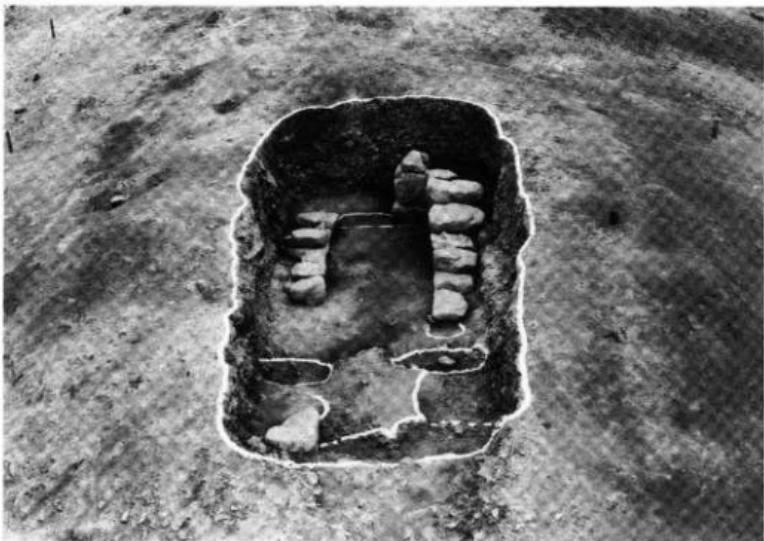
SM1003遺物出土状況 (1)



SM1003遺物出土状況 (2)



SM1003遺物出土状況 (3)



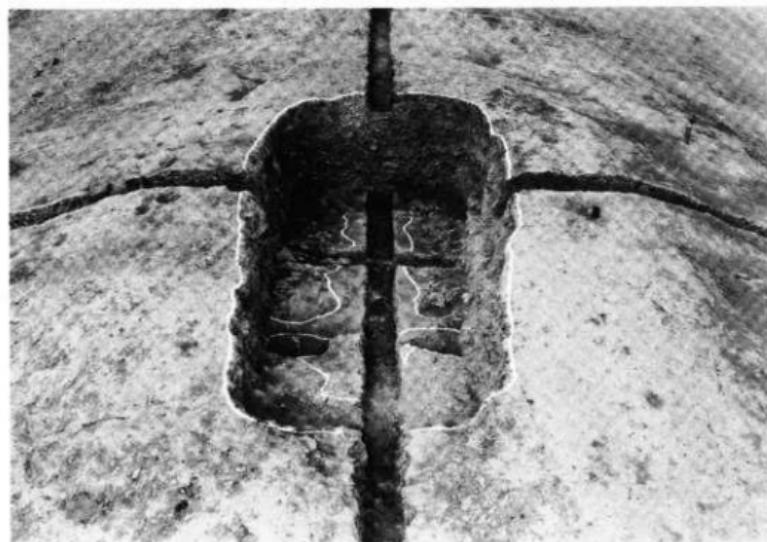
SM1003石室検出状況



SM1003側壁（西より）

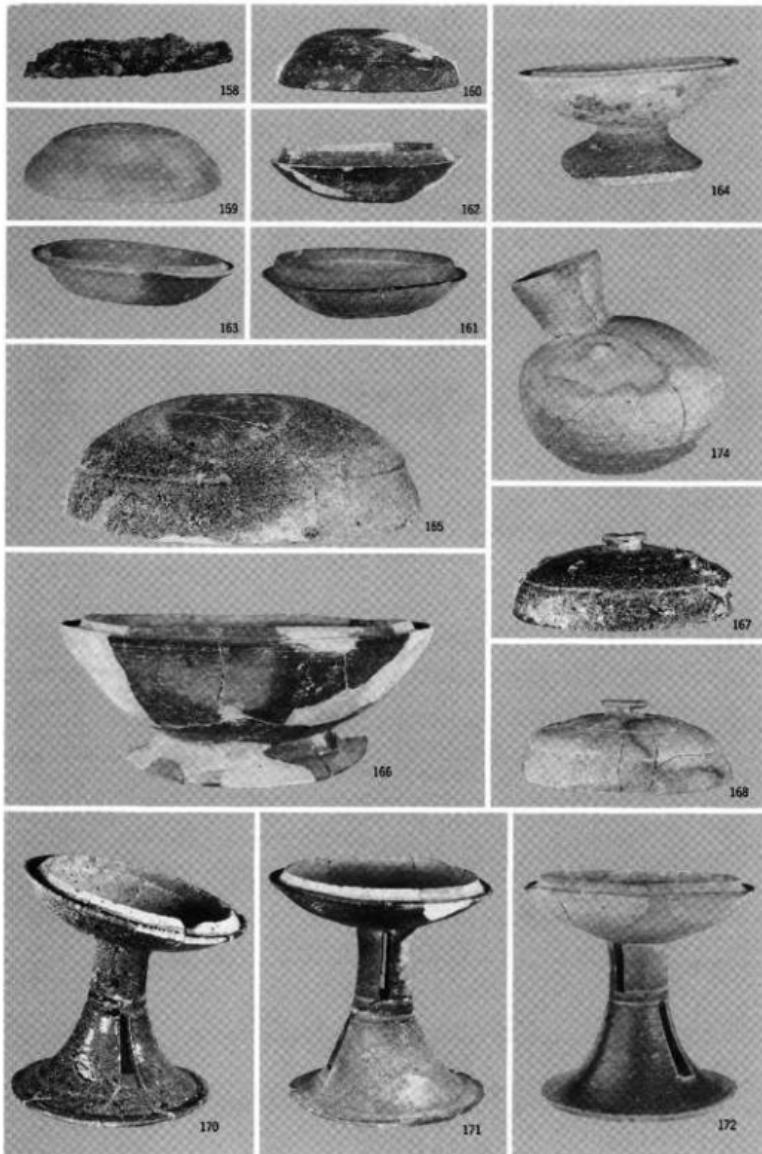


SM1003側壁（東より）

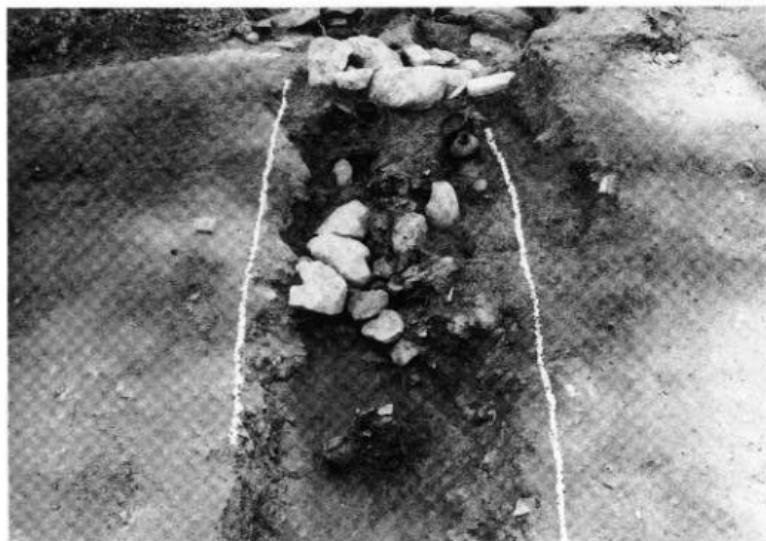


SM1003断ち割り状況

图版17



SM1003出土遺物



SM1004遺物出土状況 (1)



SM1004遺物出土状況 (2)

図版19



SM1004主体部検出状況



SM1004閉塞石検出状況

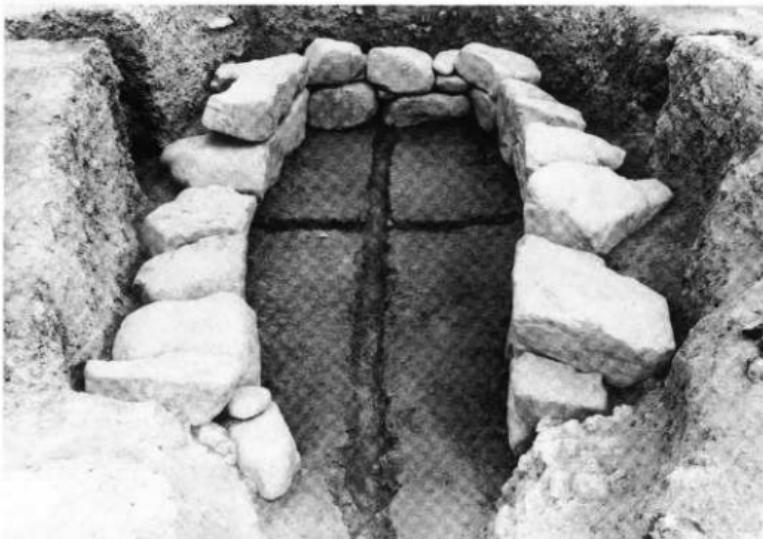


SM1004床面遺物出土状況



SM1004床面検出状況

図版21



SM1004床面検出状況及び断ち割り状況



SM1004奥壁

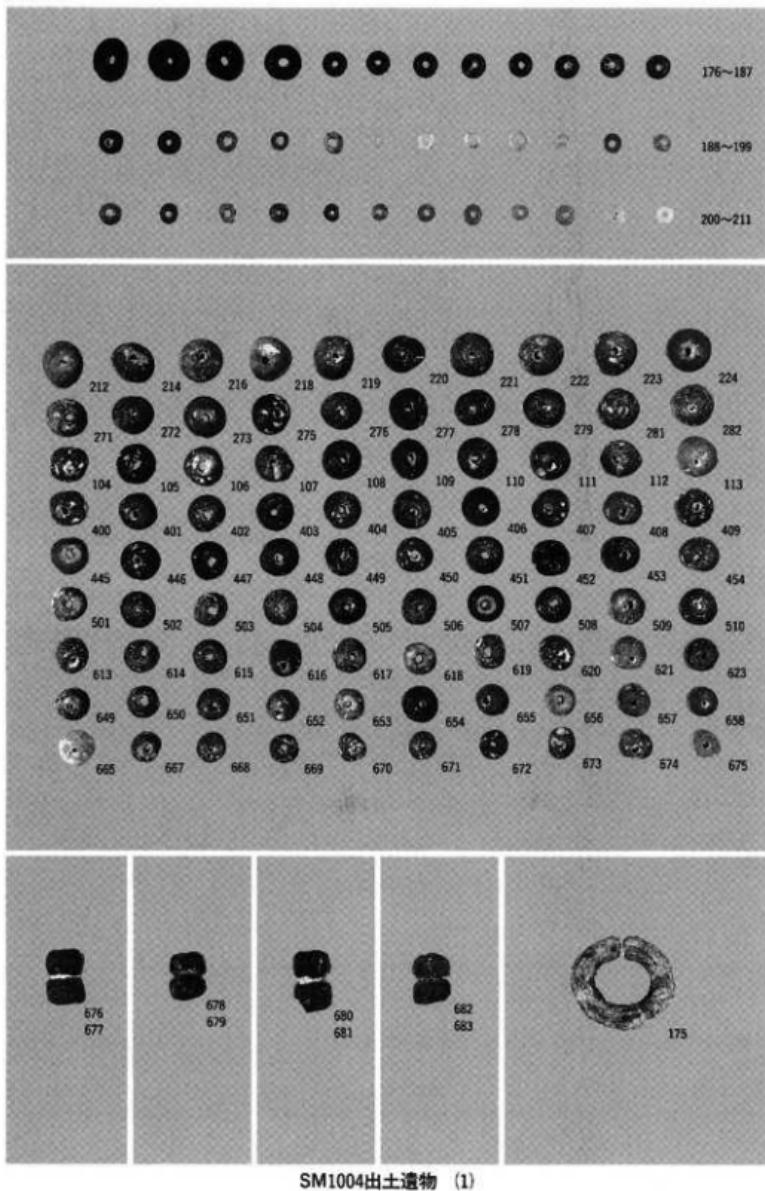


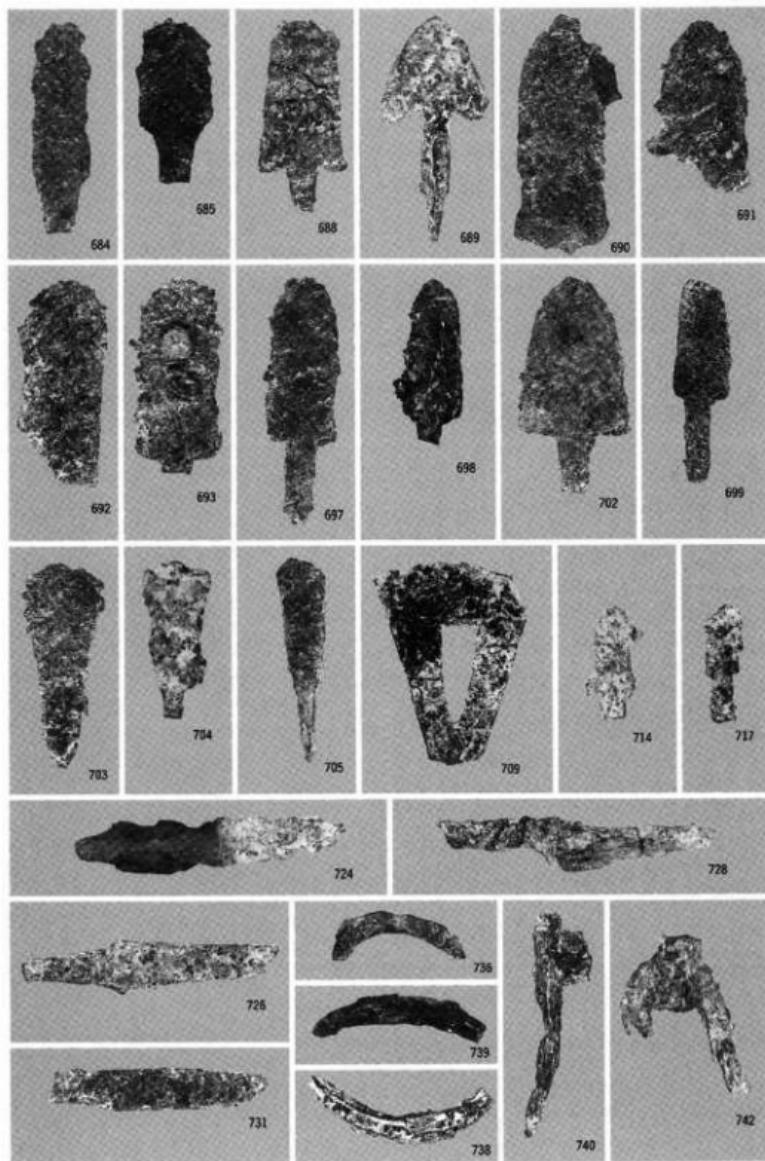
SM1004墳丘断面



SM1004断ち割り状況

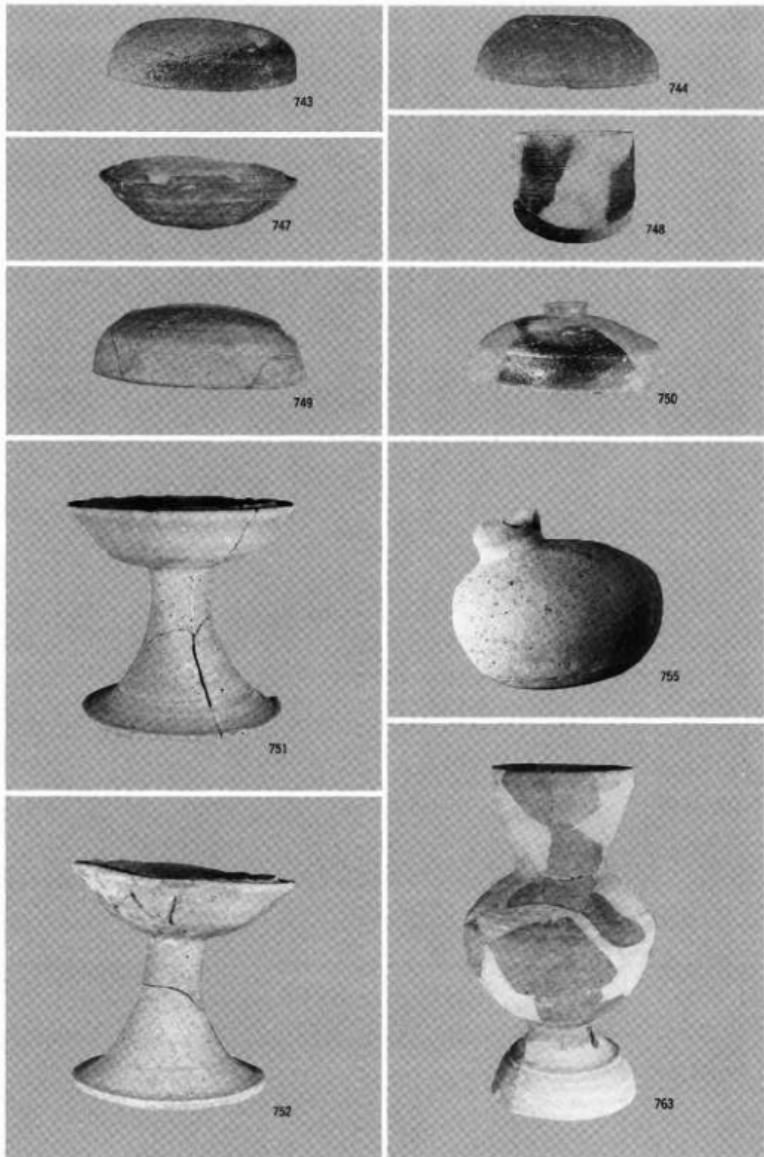
図版23





SM1004出土遗物 (2)

図版25



SM1004出土遺物 (3)



骨藏器出土状況



第一次調査終了時調査区全景



V 山田古墳群A

- 1 本章は四国縦貫自動車道に伴う、山田古墳群Aの発掘調査報告である。
- 2 発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次のとおりである。

・発掘調査	平成3年5月28日～平成3年6月6日（試掘）
	平成3年7月20日～平成4年2月20日（本調査）
・整理業務、報告書作成	平成5年4月1日～平成6年3月31日
- 3 遺物番号、挿図番号はすべて通し番号とした。

## V 山田古墳群A

### 1 調査の経過

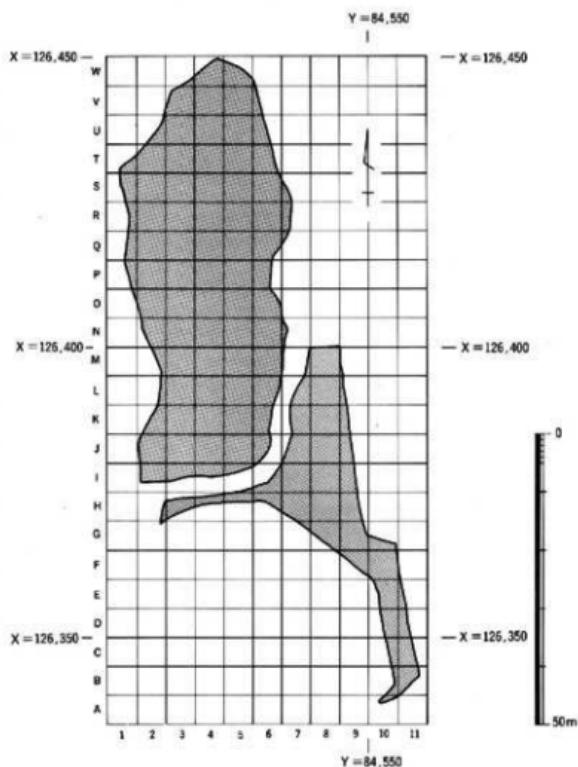
#### (1) 調査の経過

山田古墳群Aでは、四国縦貫自動車道建設予定地の尾根状に古墳状の隆起が認められ、古墳の存在が予想された。平成3年度に50m<sup>2</sup>の試掘調査を行った結果、横穴式石室と五輪塔を用いた墳墓の存在が確認されたため、本調査実施の運びとなった。

本調査開始の時点で

は、南東側の斜面部は調査区に組み入れられていなかったが、調査の途中で、工事の際に法面としてカットされることが判明したため、調査範囲に追加されることとなった。

調査は2,150m<sup>2</sup>を対象としており、平成3年7月20日～平成4年3月20日まで実施された。古墳の墳丘が遺存していたため、その位置・規模を正確におさえる目的で掘削前の時点で25cmセンターを基本とする地形測量を行っている。



第1図 グリッド配置図

## (2) 発掘調査の方法

調査区は尾根上の緩い傾斜地と南東側のやや急な斜面とに分かれ、南北に長い。本報告書の段階では、遺構が検出された地点の地形の特徴も考慮にいれながら、尾根上と南東斜面の2地点を中心に記述を進める。

グリッドは国土座標軸のX軸・Y軸を基に、5m×5mを単位として設定した。グリッド番号は東西方向（X軸方向）をアラビア数字で、南北方向（Y軸方向）をアルファベットで組み合わせて表記する。東西方向は1～11、南北方向はA～Wがあるため、南西隅がA-1、北東隅がW-11というグリッド番号となる。調査の経過でも触れたとおり調査区の再設定が調査着手後に行われたため、グリッド番号に関しては報告書の段階で当初のものから変更している。

## (3) 調査日誌抄

1991年	SM1001前庭部遺物検出作業及び遺物平面図作成。
7月25日 平板による調査前の地形測量開始。	10月3日 SM1001主体部検出作業。
8月16日 地形測量終了。	10月8日 ST1003・1004・1005掘り下げ開始。
8月22日 人力掘削開始。	10月9日 SM1001横穴式石室精査。
9月7日 SM1001周辺精査。	10月18日 SM1002墳丘検出作業。
9月20日 ST1001～ST1006検出作業。	10月21日 SM1001周濠検出作業及び掘り下げ。
9月26日 SM1001・1002、ST1001・1002検出状況写真。	10月23日 3区中世墓周辺精査。
10月2日 ST1001・1002掘り下げ開始。	10月24日 基礎状遺構検出状況写真。



写真1 作業風景



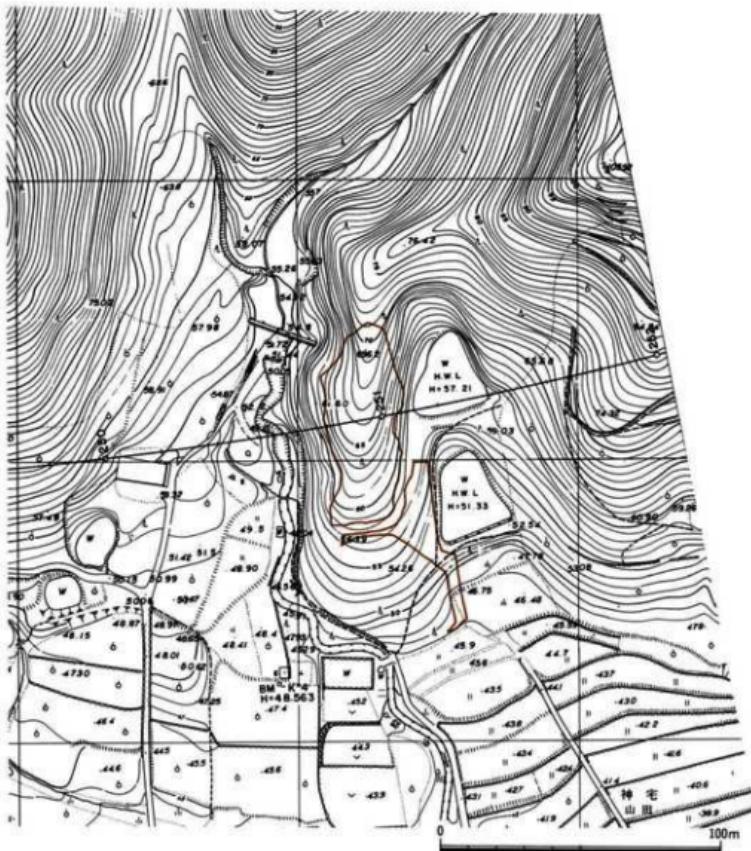
写真2 空中撮影風景



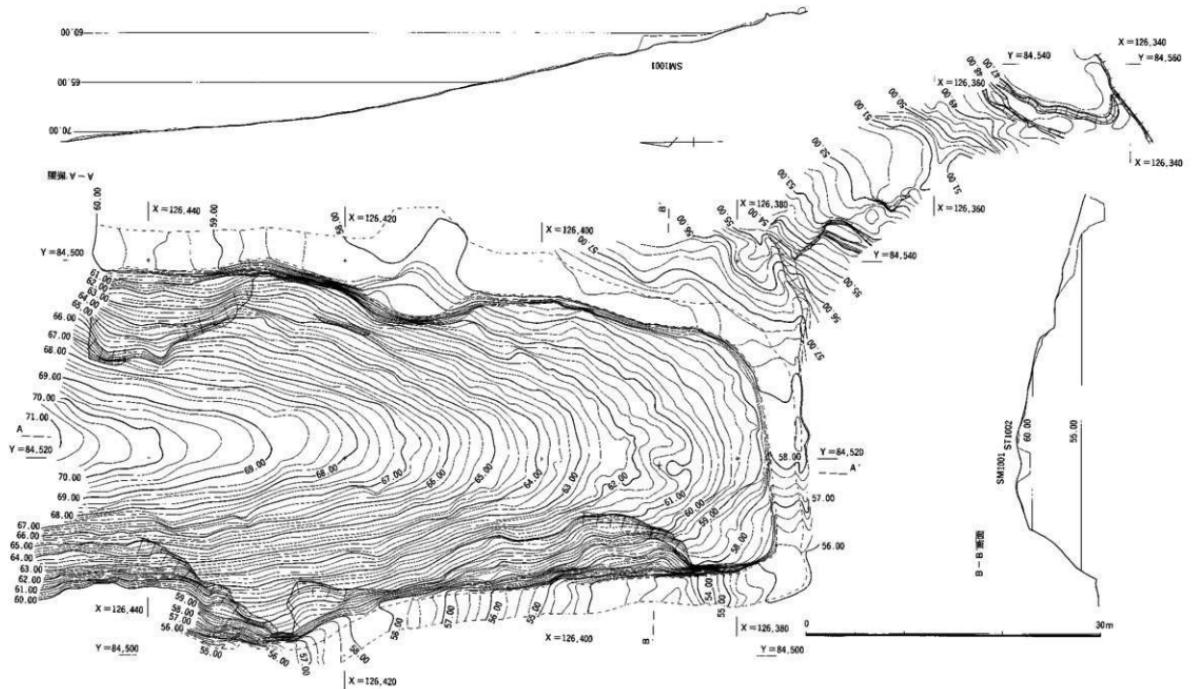
写真3 現地説明会風景

10月28日 SM1002周濠・横穴式石室掘り下げ。  
11月11日 SM1001横穴式石室床面検出作業。  
11月14日 SM1001横穴式石室の排水溝検出作業。  
11月18日 ST2001～2004検出作業。  
11月19日 SM1003精査。  
11月20日 岡山県古代吉備センターより3名来訪。

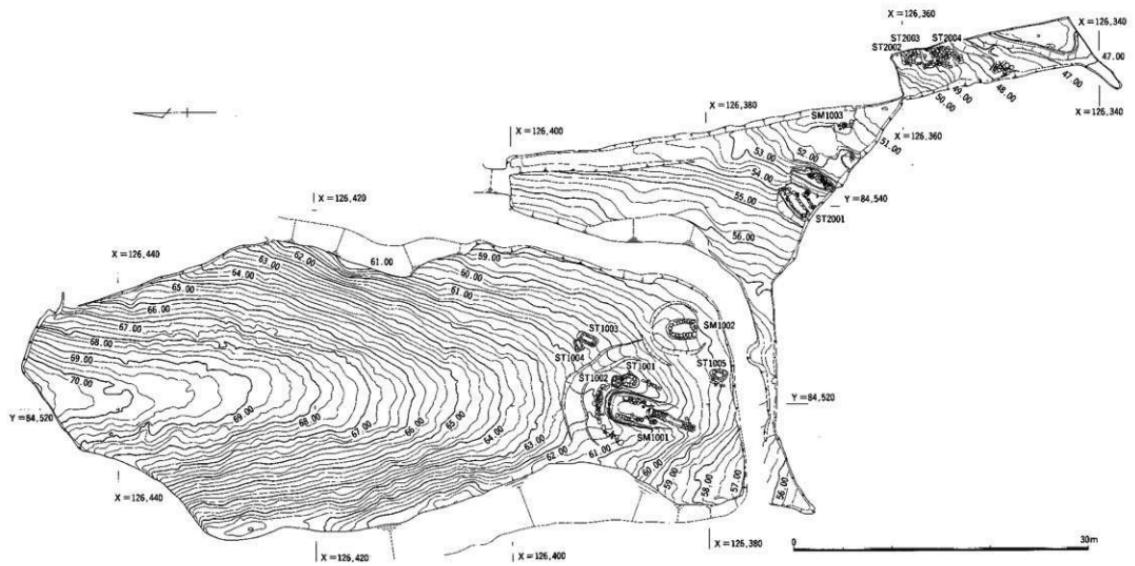
11月26日 空中撮影。  
各遺構の写真撮影。  
12月7日 現地説明会。  
12月10日 SM1001墳丘断ち割り。  
ST2001～2004掘り下げ。  
1992年  
1月7日 各遺構完掘状況写真。  
1月8日 SM1003墳丘断ち割り。  
1月16日 SM1002墳丘断ち割り。  
ST2001下部遺構精査。  
1月17日 ST2003・ST2004下部遺構精査。  
1月24日 SM1001盛り土除去。  
1月31日 ST1003～1005断ち割り。  
2月4日 SM1002断ち割り。  
2月7日 ST1001完掘状況写真。  
2月18日 SM1001盛り土除去状態の地形測量。  
2月20日 現場撤収。



第2図 調査地位置図



第3図 調査前地形測量図



#### 第4図 調査後地形測量図（全体）

## 2 調査成果

### (1) 現況と基本層序

まず調査前の状況について、地形測量図を基に概観する（第3図）。

山田古墳群Aが位置する地点は南北に伸びる尾根とその南東側の斜面である。尾根上においては標高60～70mの地点が相当する。この間の延長は70mを測るが、隙だつた傾斜変換もみられずなだらかである。地形測量図には現れていないが、尾根の中央部標高60mより南側についてはやや傾斜が変化しており、下りはわずかに急となっている。このことは、標高60m付近に築かれた1号墳からの眺望がきわめてよいことを示している。1号墳が検出された地点では等高線の乱れがはっきり観察され、横穴式石室を主体とする円墳があり盗掘を受けているらしいことがこの時点で明かとなった。また、2号墳が検出された地点でも等高線が若干乱れていることが、検出後に結果として分かった。尾根の周囲には大小の擾乱や土砂の流失に伴う落ち込みが多く認められる他、尾根の東側にはため池がつくられていることから、遺構が築かれた段階と比較すると地形はかなりの改変を経ていることが分かる。この部分での堆積は尾根上では表土の腐食土直下において風化砂岩を含む基盤層に到達し、包含層は遺存していない。それに対して、東側斜面部においては流失土が堆積しており、厚い箇所では1mを越える堆積があった。

南東側斜面では、限られた測量範囲のため全体の起伏は表現できていないが、やはり擾乱などによる小規模の落ち込み・擾乱のある状況が分かる。斜面部では尾根上と比較すると安定した堆積状況を示しており若干の包含層がみられ、隣接する遺構に伴う土器片や五輪塔が出土した。

### (2) 遺構と遺物

検出された遺構は、古墳3基、小型穴式石室5基、中世墓4基などである（第4図）。古墳時代の遺構は調査区の南半の尾根上から東斜面にかけて検出された。中世墓は調査区南東端の斜面に集中している。1号墳（SM1001）の南側・南東側の斜面の調査区外では、須恵器が散布する箇所が広がり、古墳時代の遺構や中世墓群の範囲がさらに広くなることが確実である。3号墳は墳丘北西側、尾根の東側のため池とそれに伴う導水施設による擾乱を受けていた。3号墳のような墳丘を失った古墳が、調査区外にも点在する可能性も見込んでおく必要がある。

調査区の北半は表土直下が砂岩質の基盤層であり、遺構は検出されなかったが、尾根の稜線上にあたる表土中より、須恵器の藏骨器1個体分などの遺物がわずかに出土した。破片が広い範囲より出土している点や、遺存の程度が低いことから藏骨器の埋納施設が築かれてはいたものの、完全に削平されていたことが想定される。また、藏骨器の周辺では古墳時代の須恵器も少數ではあるが出土しており、尾根線上に何らかの遺構があった可能性も想定ができる。

#### 藏骨器（第5図）

Q-5・6グリッド地点の表土中より出土した。全体の約20%程度の遺存状態である。高台は完全に欠損しており、蓋に相当する破片も認められない。最大径を上位1/3にもつ偏球形の体部に、直立する短い口縁部がつく。体部表面には爪の圧痕を伴う指頭圧痕が部分的には2段にわたって巡るが、焼成前の作業時についたものであろう。焼成は全体に一様ではなく、体部下半及び脚部内面ではやや不良で、焼成不良の部分の色調はやや黄色みが強い。色調・胎土の面からは古墳時代に伴うものとは明らかに違う特徴をもつ。共伴遺物がないため、明確に年代をおさえることは困難であるが、他遺跡の例などからみて8世紀後半～9世紀前半に位置づけておきたい。

同様の須恵器の藏骨器は、隣接する山田古墳群Bでも人骨などを伴って出土している<sup>(1)</sup>。板野町域から上板町域の広い範囲において古代の埋葬が数例知られており、古代において大山の麓一帯が墓域として意識されていた可能性がある。

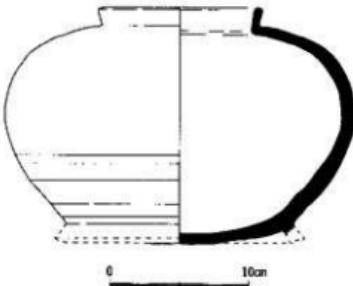
#### A 尾根上の遺構

尾根上では尾根の先端部とも言うべき立地を示す1号墳と、1号墳に隣接する2号墳が主要な遺構である。1号墳の墳丘の周囲に検出された5基の小堅穴式石室は1号墳に伴うものとみられるため、1号墳に引き続いて記述を進める。以下、各遺構の概要を述べてゆきたい。

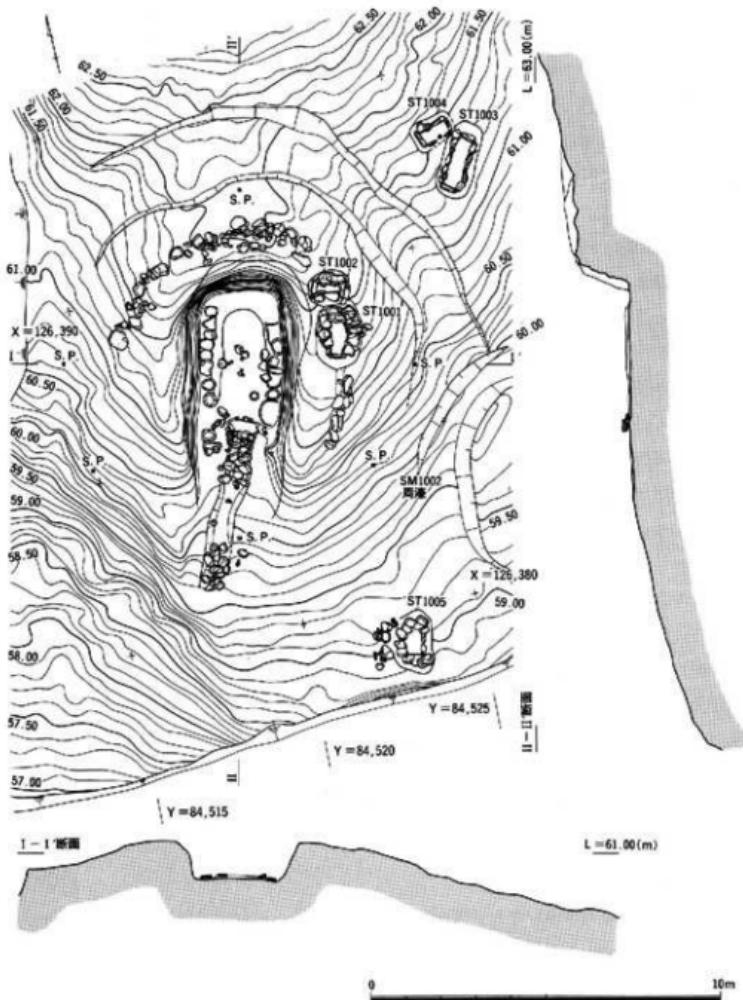
#### 1号墳 (SM1001)

##### 位置

山田古墳Aが位置する尾根の稜線上中央部、J・K・L-2・3・4・5グリッドに築かれた横穴式石室を主体とする円墳である。尾根は緩やかな傾斜をもっているものの、1号墳



第5図 Q-5・6グリッド出土須恵器藏骨器



第6図 SM1001墳丘図

の南側では傾斜はやや急になり、下の水田面へと下っている（第3図・第4図）。1号墳は標高60～62mに位置し、下位の水田面は標高45m台で比高差は15m余りである。後述する2号墳・3号墳などと比較すると、この尾根の中では最も展望のきく条件のよい占地といふことができる。

## 外部施設

### 墳丘（第6図・第7図）

調査前の地形測量の段階で、等高線の微妙な形状や盜掘坑の掘り方の落ち込みから、横穴式石室を主体とする径15～20mの円墳が想定された。調査の結果、周濠を伴うほぼ正円の円墳であり、その規模は墳丘の径が10mである。周濠を含めた全体の規模は13.5～14mとなる。横穴式石室を覆うのに充分な高さを復元すると高さは約4mとなる。

まず、基盤層に平面U字形の墓壙を掘削している。墓壙の規模は全長7.05m、最大幅3.5m、深さは奥壁よりの最も深い部分で1.5m以上に及んだものと考えられる。この場合、掘削土量は約18m<sup>3</sup>と想定される。

横穴式石室の構築手順は、壁体を構築しながら裏込め部分に土を盛ってゆくもので、奥壁部分では8度に(31～23層)、玄室東側側壁では4度に(70～67層)分けて充填し、壁体の構築に従って盛り土を行う。盛り土部分には炭化物を含む層(23・33・48・57・58・63・68・75・83・85層)が鍵層として確認できる。炭化物を含む層を盛り土及び裏込め部分の構築時の作業単位として把握すれば、異なる性質の土3～4層を互層を盛るという作業工程を二～五度繰り返していたことが分かる。

### 周濠

墳丘の北側と東側に周濠を巡らせる。東側の周濠の縁辺は、2号墳の周濠によって切られている。西側についても周濠を巡らせていた可能性があるが、土砂の流失によって本来の地形が失われているために確認することができなかった。遺存していた部分の計測値は墳丘北側部分の最大幅が2.45m、東側の最大幅1.55mである。その深さについても流失している箇所では浅いものとなっている。

最も遺存状態の良い墳丘北側では30cm強の堆積が遺存していた。堆積は4層(17～20層)に分けられるが、いずれもしまりがなく柔らかい砂質土である。これらのうち上位2層中に須恵器片が含まれていた。

### 外区列石

墳丘検出面の墓壙を取り囲むU字形に検出された(第6図)。石材はすべて砂岩であるが、2号石室墓の墓壙より北側約1mを境にして西側が角礫、東側が円礫で構成されていた。礫の大きさは角礫の部分では、径10cm程度の拳大のものから径50cmのやや大形のものまで多様な大きさのものがみられるのに対して、円礫の部分では長径30～50cmの細長いものに揃っている特徴がある。1号墳墳丘内に築かれた2基の小豎穴式石室の墓壙の部分では、これらの列石は途切れている。これらの列石の年代は明確には押さえることができない。礫の下面より1号墳と同時期と考えられる須恵器が出土しており、①1号墳の墳丘築造時、②小豎穴式石室築造時、③古墳再利用時または盗掘時、などの可能性が考えられる。小豎穴式石室の構